

「世田谷区子ども・子育て支援事業計画」ニーズ調査（就学児童）

1 調査の目的

この調査は、子ども・子育て支援法に基づく「世田谷区子ども・子育て支援事業計画」の策定のための全国の自治体で共通項目による調査に、世田谷区子ども条例の推進計画である「世田谷区子ども計画（第2期）」の策定のための独自の調査項目を加えて、今後の区の子育て支援策等の検討に資することを目的とする。

2 調査対象

世田谷区に居住する6歳～9歳（平成25年4月1日現在）の児童の保護者
各年齢1,000人ずつ 計4,000人

3 抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

4 調査方法

郵送配布・郵送回収

5 調査時期

平成25年8月12日～9月2日

6 回収数・回収率

発送・配布数	有効回収数 (有効回収率)
4,000	1,855 (46.4%)

2 就学児童調査

(1) 子どもと家族の状況

年齢(問1)

回答者の子どもの年齢は、「6歳(25.5%)」、「9歳(24.7%)」、「8歳(24.3%)」、「7歳(24.1%)」の順となっている。平均年齢は7.5歳であった(図表2-1-1)。

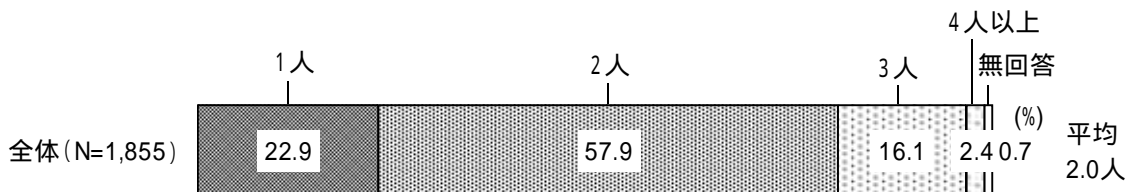
図表2-1-1 年齢(全体)



子どもの人数と末子の年齢(問2)

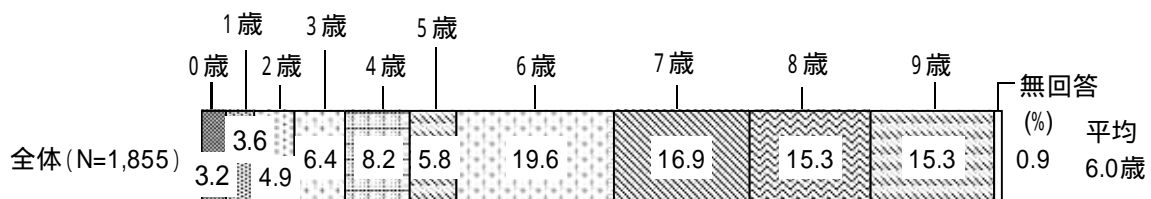
子どもの人数は、「2人(57.9%)」、「1人(22.9%)」、「3人(16.1%)」の順となっている。平均人数は2.0人であった(図表2-1-2)。

図表2-1-2- 子ども的人数(全体)



末子の年齢は、「6歳(19.6%)」、「7歳(16.9%)」、「8歳(15.3%)」、「9歳(15.3%)」の順となっている。平均年齢は、6.0歳であった(図表2-1-2)。

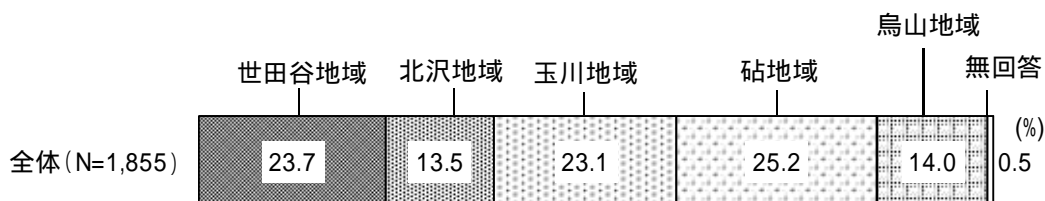
図表2-1-2- 末子の年齢(全体)



居住地域（問3）

回答者の居住地域は、「砧地域（25.2%）」、「世田谷地域（23.7%）」、「玉川地域（23.1%）」、「烏山地域（14.0%）」、「北沢地域（13.5%）」の順となっている（図表2-1-3）。

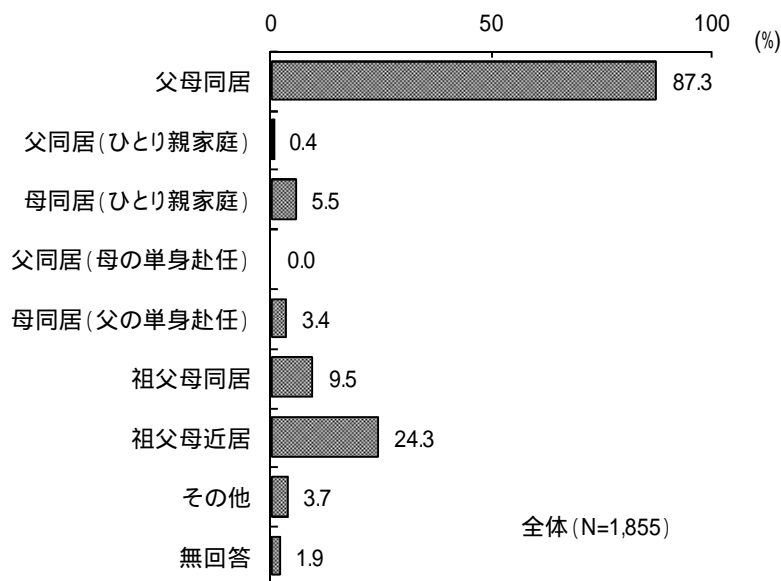
図表2-1-3 居住地域（全体）



同居・近居の状況（問4）

同居・近居の状況をたずねたところ、「父母同居（87.3%）」が最も多く、これに「祖父母近居（24.3%）」、「祖父母同居（9.5%）」が続いている（図表2-1-4）。

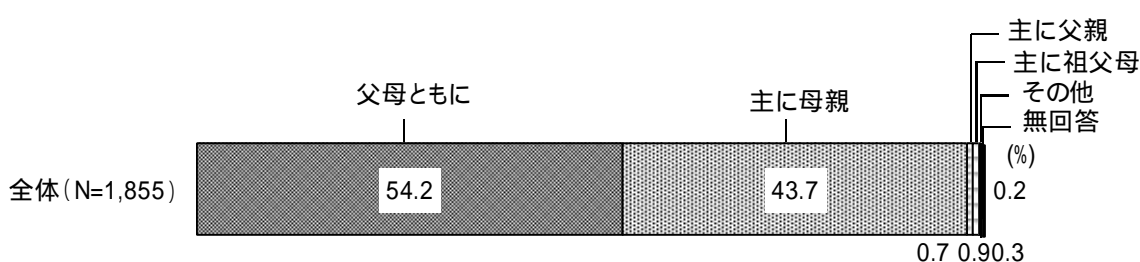
図表2-1-4 同居・近居状況（全体：複数回答）



子育てを主に行っている人（問5）

子育てを主に行っている人は、「父母ともに（54.2%）」が、「主に母親（43.7%）」を上回った（図表2-1-5）。

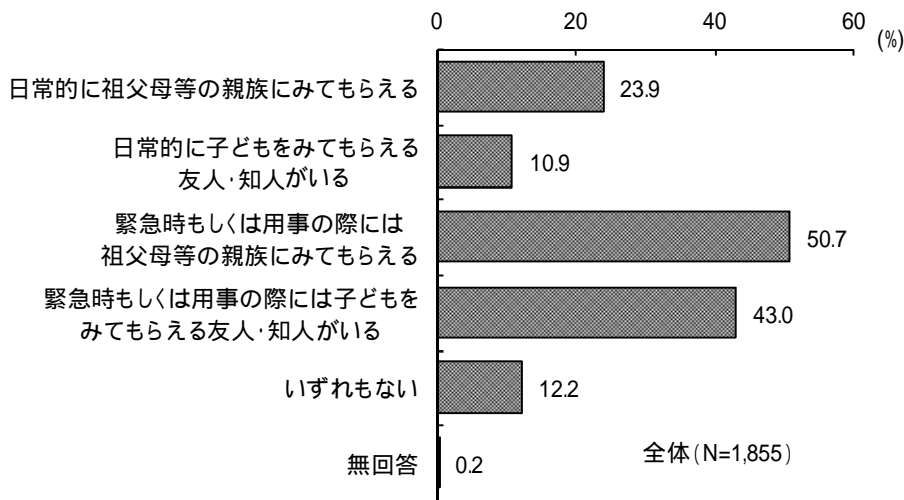
図表2-1-5 子育てを主に行っている人（全体）



子どもをみてもらえる親族、友人・知人の有無（問6）

祖父母等の親族、友人・知人に子どもを預かってもらえる状況をたずねたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる（50.7%）」が最も多く、これに「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる（43.0%）」が続いた（図表2-1-6）。

図表2-1-6 子どもをみてもらえる親族、友人・知人の有無（全体）



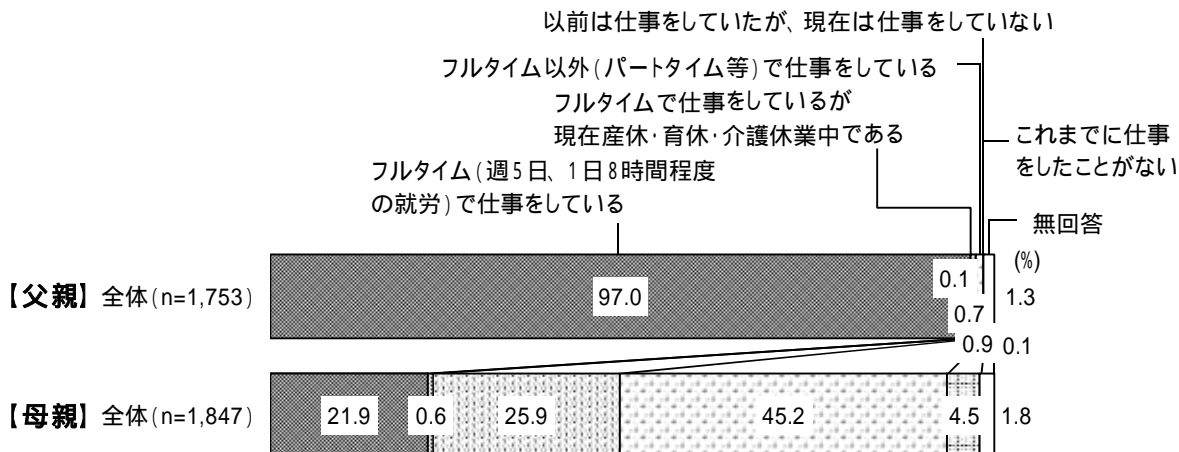
(2) 保護者の就労状況

就労状況（問7）

就労状況

就労状況は、父親では「フルタイム（週5日、1日8時間程度の就労）で仕事をしている（97.0%）」が大多数であるが、母親では「以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない（45.2%）」が最も多く、これに「フルタイム以外（パートタイム等）で仕事をしている（25.9%）」、「フルタイム（週5日、1日8時間程度の就労）で仕事をしている（21.9%）」が続いている（図表2-2-1-1）。

図表2-2-1-1 就労状況（全体）

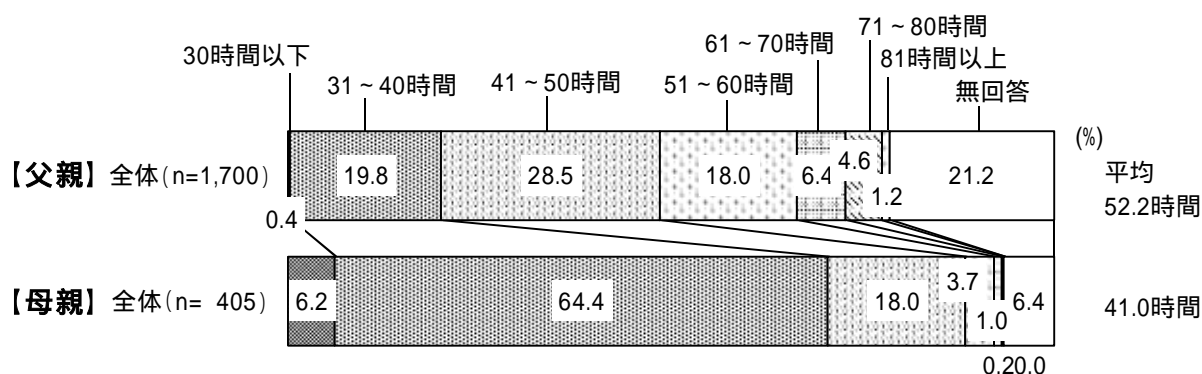


フルタイムで働いている人の1週当たりの就労時間

フルタイムで働いている人の1週間あたりの就労時間は、父親では「41～50時間(28.5%)」が最も多く、平均では52.2時間である。

母親では「31～40時間(64.4%)」が最も多く、平均では41.0時間となっている(図表2-2-1-)。

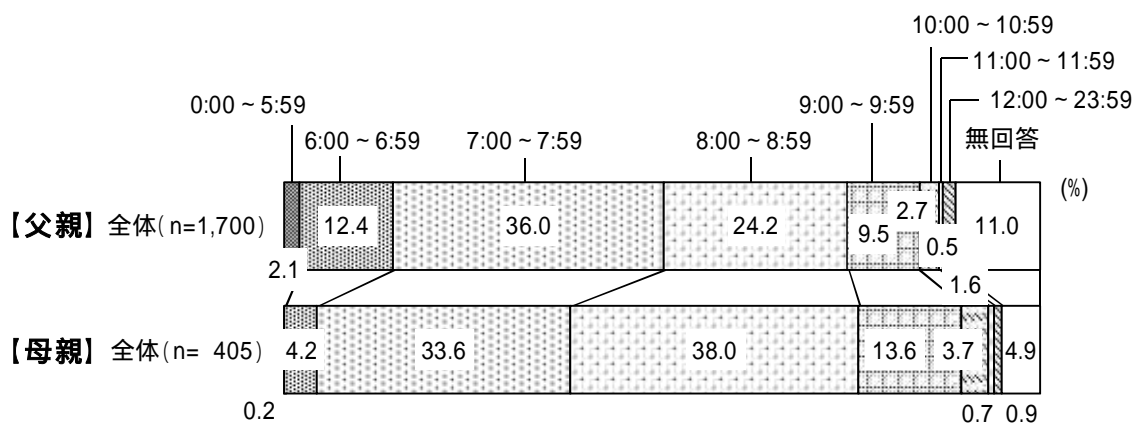
図表2-2-1- フルタイムで働いている人の1週当たりの就労時間(全体)
<フルタイムで働いていると回答した人>



フルタイムで働いている人の家を出る時間

フルタイムで働いている人の家を出る平均的な時間は、父親では、「7:00～7:59(36.0%)」が最も多く、これに「8:00～8:59(24.2%)」が続いている。母親では、「8:00～8:59(38.0%)」が最も多く、これに「7:00～7:59(33.6%)」が続いている(図表2-2-1-)。

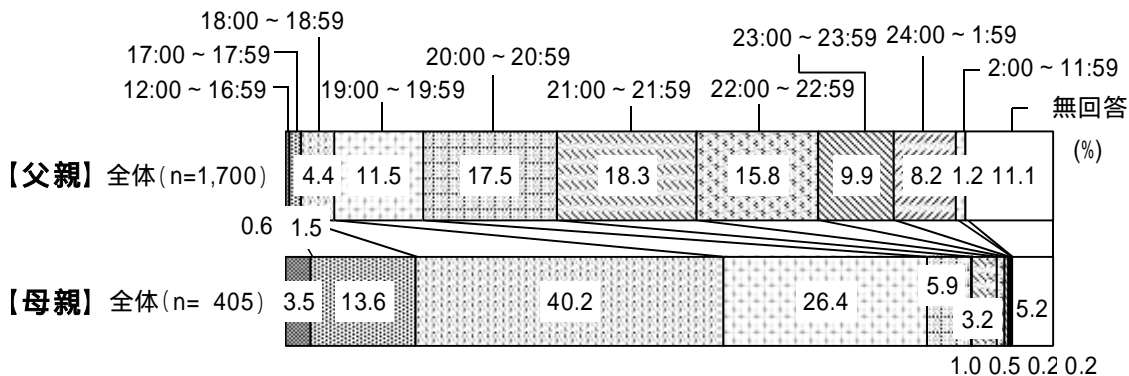
図表2-2-1- 家を出る平均的な時間(全体)
<フルタイムで働いていると回答した人>



フルタイムで働いている人の帰宅時間

フルタイムで働いている人の平均的な帰宅時間は、父親では、「21:00～21:59(18.3%)」が最も多く、これに「20:00～20:59(17.5%)」が続いている。母親では、「18:00～18:59(40.2%)」が最も多く、これに「19:00～19:59(26.4%)」が続いている(図表2-2-1-)。

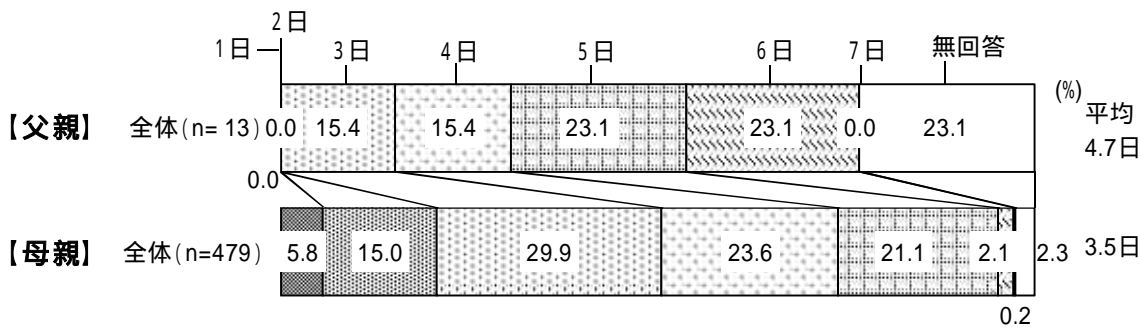
図表2-2-1- 平均的な帰宅時間(全体)
<フルタイムで働いていると回答した人>



フルタイム以外で働いている人の1週当たりの就労日数

フルタイム以外で働いている人の1週間あたりの就労日数は、父親では「5日(23.1%)」、「6日(23.1%)」が多く、平均は4.7日であった。母親では、「3日(29.9%)」、「4日(23.6%)」が多く、平均は3.5日であった(図表2-2-1-)。

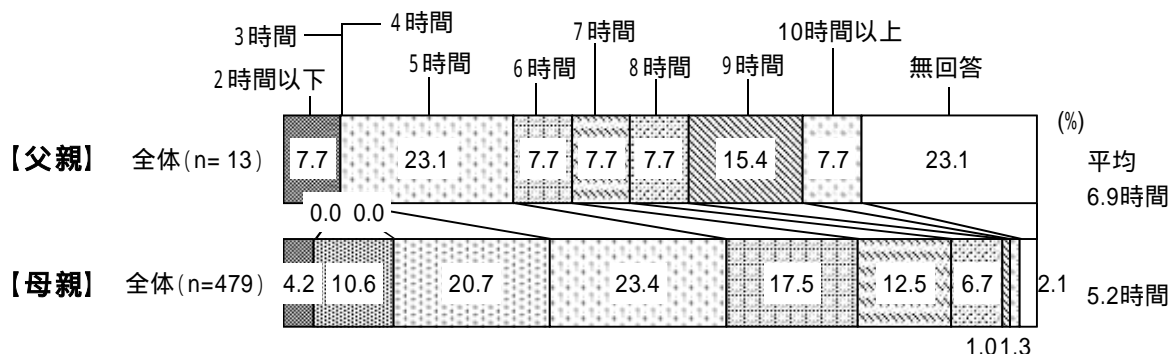
図表2-2-1- 1週当たりの就労日数(全体)
<フルタイム以外で働いていると回答した人>



フルタイム以外で働いている人の1日当たりの就労時間

フルタイム以外で働いている人の1日あたりの就労時間は、父親では「5時間(23.1%)」、「9時間(15.4%)」の順で多く、平均は6.9時間であった。母親では、「5時間(23.4%)」、「4時間(20.7%)」が多く、平均は5.2時間であった(図表2-2-1-)。

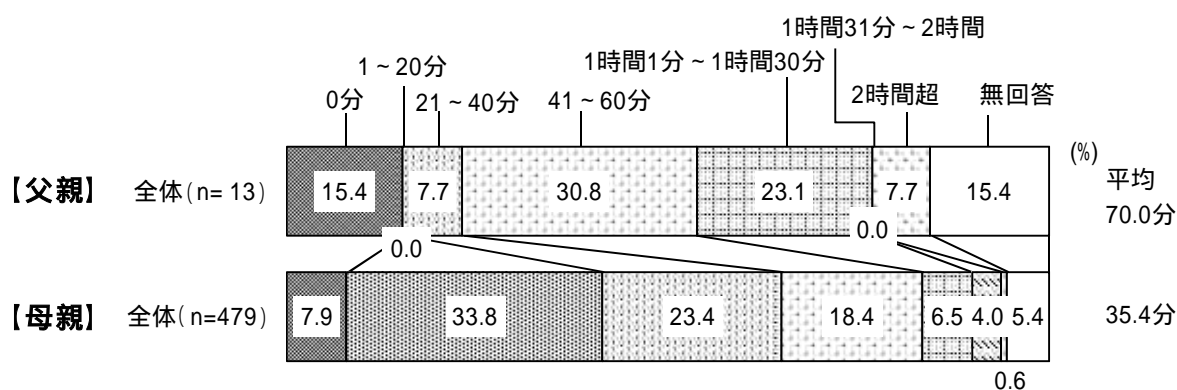
図表2-2-1- 1日当たりの就労時間(全体)
<フルタイム以外で働いていると回答した人>



フルタイム以外で働く人の往復通勤時間

フルタイム以外で働いている人の往復通勤時間は、父親では、「41~60分(30.8%)」、「1時間1分~1時間30分(23.1%)」の順で多く、平均は70.0分である。母親では、「1~20分(33.8%)」、「21~40分(23.4%)」の順で多く、平均は35.4分であった(図表2-2-1-)。

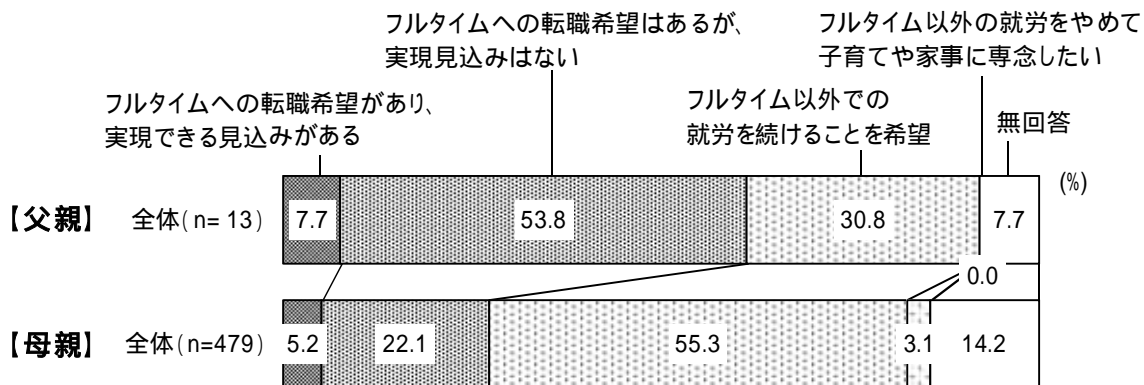
図表2-2-1- 往復通勤時間
<フルタイム以外で働いていると回答した人>(全体)



フルタイム以外で働いている人のフルタイムへの転職希望

フルタイム以外で働いている人のフルタイムへの転職希望は、父親では「フルタイムへの転職希望はあるが、実現できる見込みはない(53.8%)」₁、「フルタイム以外での就労を続けることを希望(30.8%)」₁の順で多く、母親では「フルタイム以外での就労を続けることを希望(55.3%)」₁、「フルタイムへの転職希望はあるが、実現できる見込みはない(22.1%)」₁が多くなっている(図表2-2-1-)。

図表2-2-1- フルタイムへの転職希望(全体)
 <フルタイム以外で働いていると回答した人>

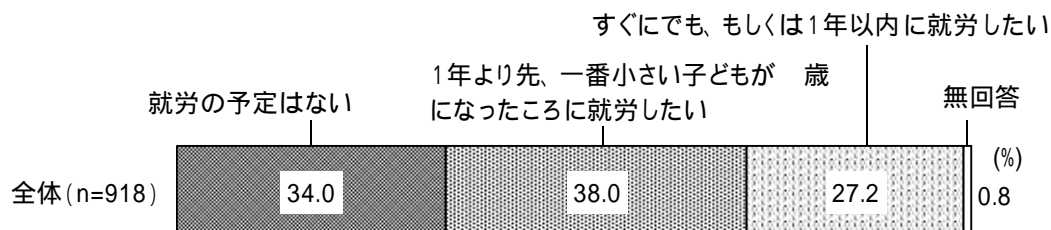


母親の就労希望(問7-1)

母親の就労希望

母親が現在就労していないと回答した人に対して、母親の就労希望をたずねたところ、「1年より先、一番小さい子どもが 歳になったところに就労したい(38.0%)」₁、「就労の予定はない(34.0%)」₁などが多かった(図表2-2-2-)。

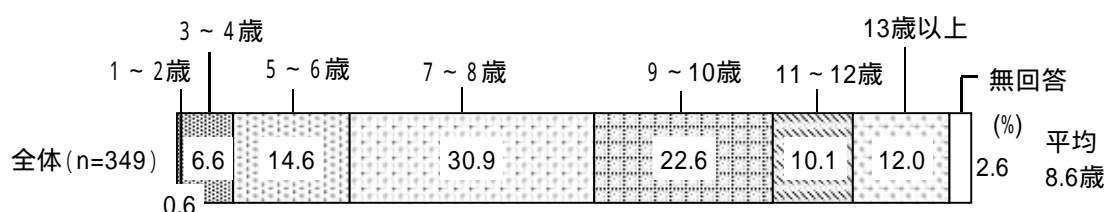
図表2-2-2- 母親の就労希望(全体)
 <母親が現在就労していないと回答した人>



就労したいと思う末子の年齢

1年より先に就労希望の人の就労時の子どもの年齢は、「7～8歳(30.9%)」が最も多く、これに「9～10歳(22.6%)」、「5～6歳(14.6%)」が続いている(図表2-2-2-)。

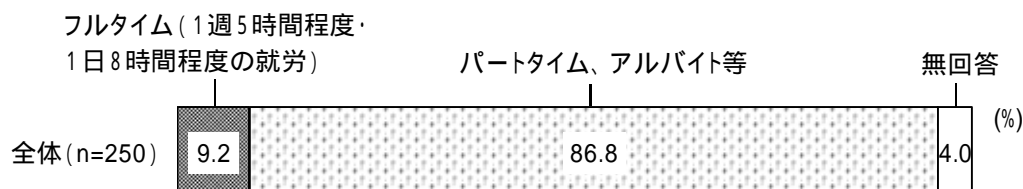
図表2-2-2- 就労したいと思う末子の年齢(全体)
<1年より先、子どもが 歳になったところに就労したいと回答した人>



希望する就労形態

1年以内に就労希望の人に対して、希望する就労形態をたずねたところ、「パートタイム、アルバイト等(86.8%)」、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)(9.2%)」の順であった(図表2-2-2-)。

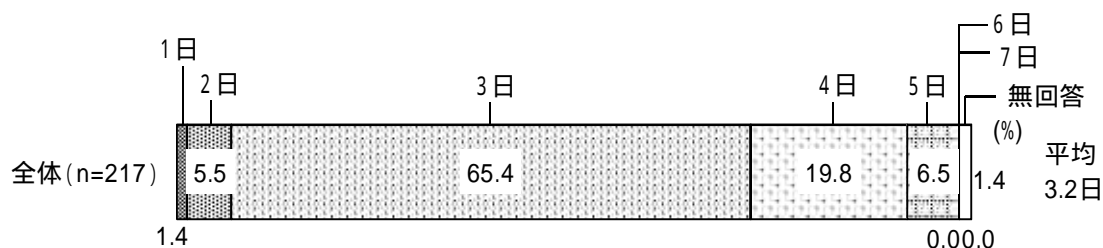
図表2-2-2- 希望する就労形態(全体)
<すぐにでも、もしくは1年以内に就労したいと回答した人>



希望する1週当たりの就労日数

母親が現在就労していないケースで、「パートタイム、アルバイト等」を選んだ人の希望する就労1週あたりの日数は、「3日(65.4%)」、「4日(19.8%)」、「5日(6.5%)」の順で多かった。平均日数は3.2日であった(図表2-2-2-)。

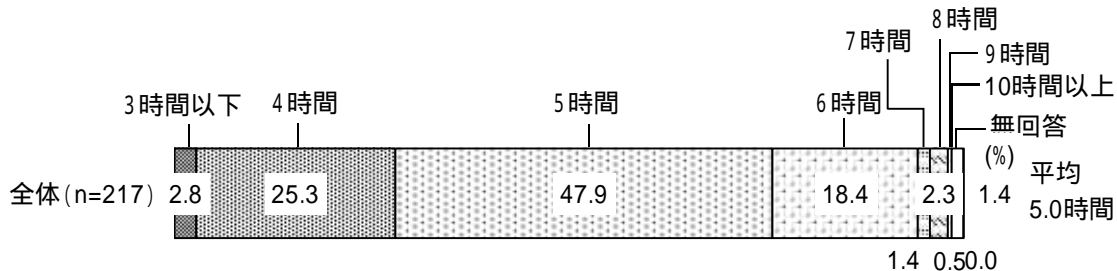
図表2-2-2- 希望する1週当たりの就労日数(全体)
<パートタイム、アルバイト等の就労形態を希望する人>



希望する1日当たりの就労時間

同様のケースで、希望する1日あたりの就労時間は、「5時間(47.9%)」、「4時間(25.3%)」、「6時間(18.4%)」などが多く、平均希望時間は5.0時間であった(図表2-2-2-)。

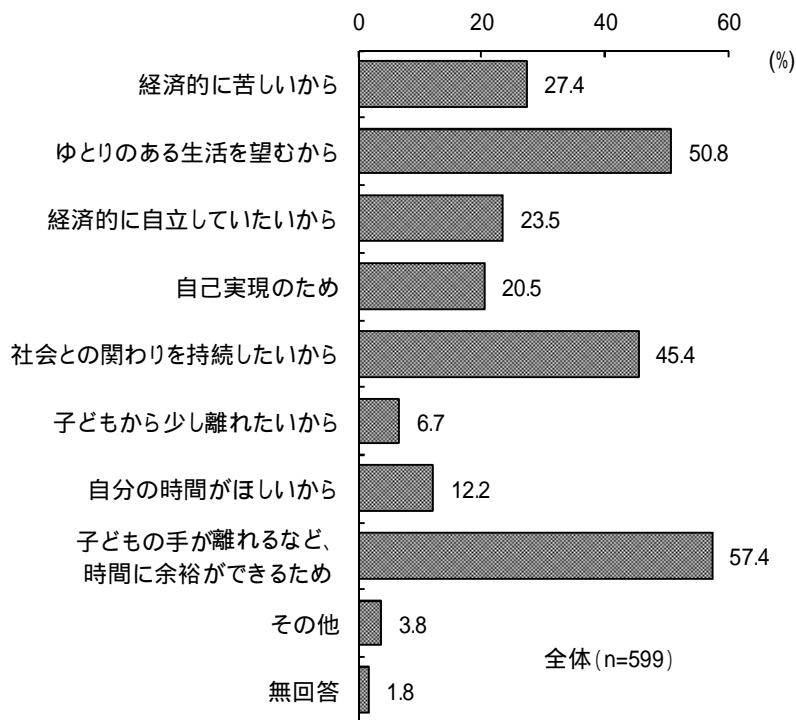
図表2-2-2- 希望する1日当たりの就労時間(全体)
 <パートタイム、アルバイト等の就労形態を希望する人>



今後就労を希望する理由(問7-2)

就労希望のある母親に対してその理由をたずねたところ、「子どもの手が離れるなど、時間に余裕ができるため(57.4%)」、「ゆとりのある生活を望むから(50.8%)」、「社会との関わりを持続したいから(45.4%)」の順が多かった(図表2-2-3)。

図表2-2-3 今後就労を希望する理由(全体)
 <母親で現在就労していないが、就労を希望している人>

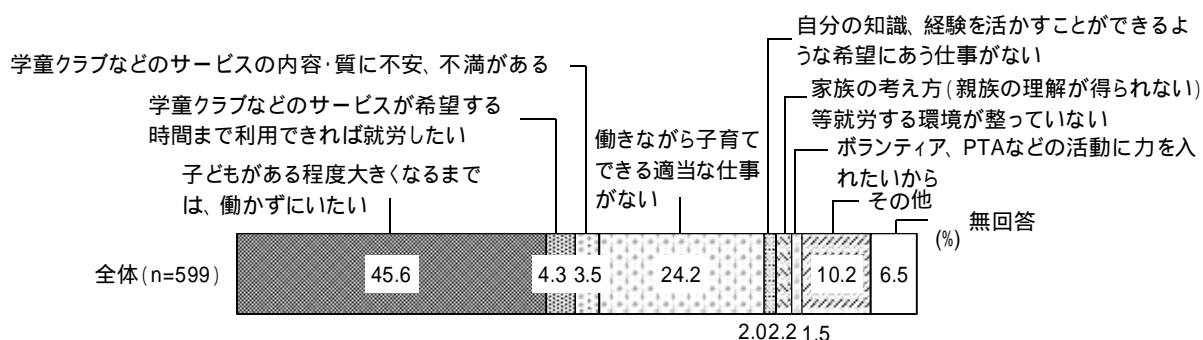


就労希望があっても現在働いていない理由（問7 - 3）

就労希望があっても、現在働いていない理由としては、「子どもが小さい間は、働かずにいたい（45.6%）」、「働きながら子育てできる適当な仕事がない（24.2%）」、「その他（10.2%）」（図表2 - 2 - 4）。

図表2 - 2 - 4 就労希望があっても現在働いていない（全体）

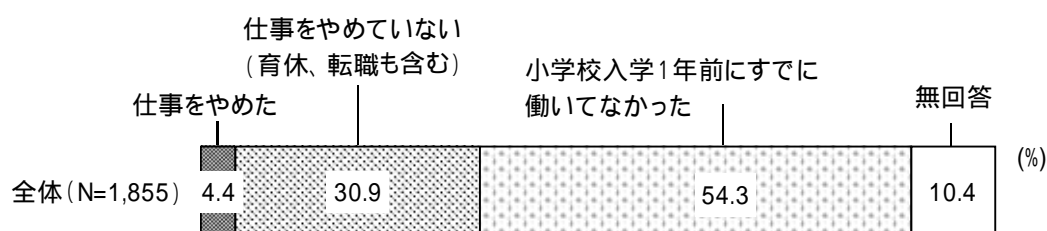
< 母親で現在就労していないが、就労を希望している人 >



小学校入学前後1年間の離職の経験（問8）

小学校入学前後1年間の離職の経験をたずねたところ、「小学校入学1年前にすでに働いていなかった（54.3%）」、「仕事をやめていない（育休、転職も含む）（30.9%）」、「仕事をやめた（4.4%）」の順であった（図表2 - 2 - 5）。

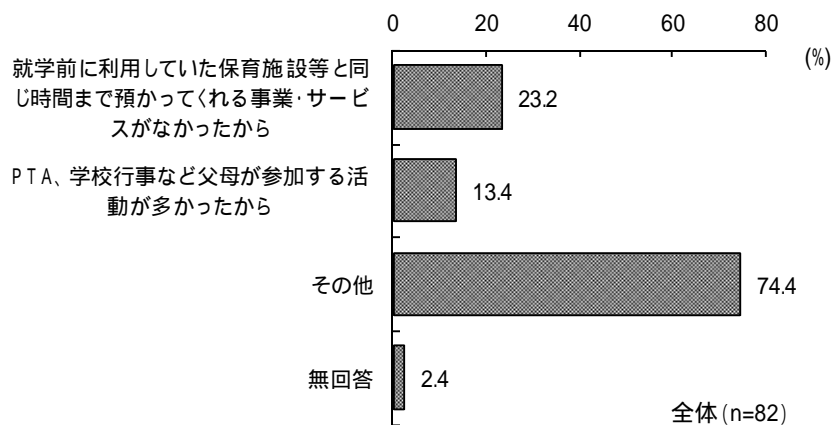
図表2 - 2 - 5 小学校入学前後1年間の離職の経験（全体）



仕事をやめた理由（問 8 - 1）

仕事をやめた理由としては、「就学前に利用していた保育施設等と同じ時間で預かってくれる事業・サービスがなかったから」が 23.2%で、「PTA、学校行事など父母が参加する活動が多かったから」が 13.4%であった（図表 2 - 2 - 6）。

図表 2 - 2 - 6 仕事をやめた理由
<やめたと回答した人>（全体：複数回答）

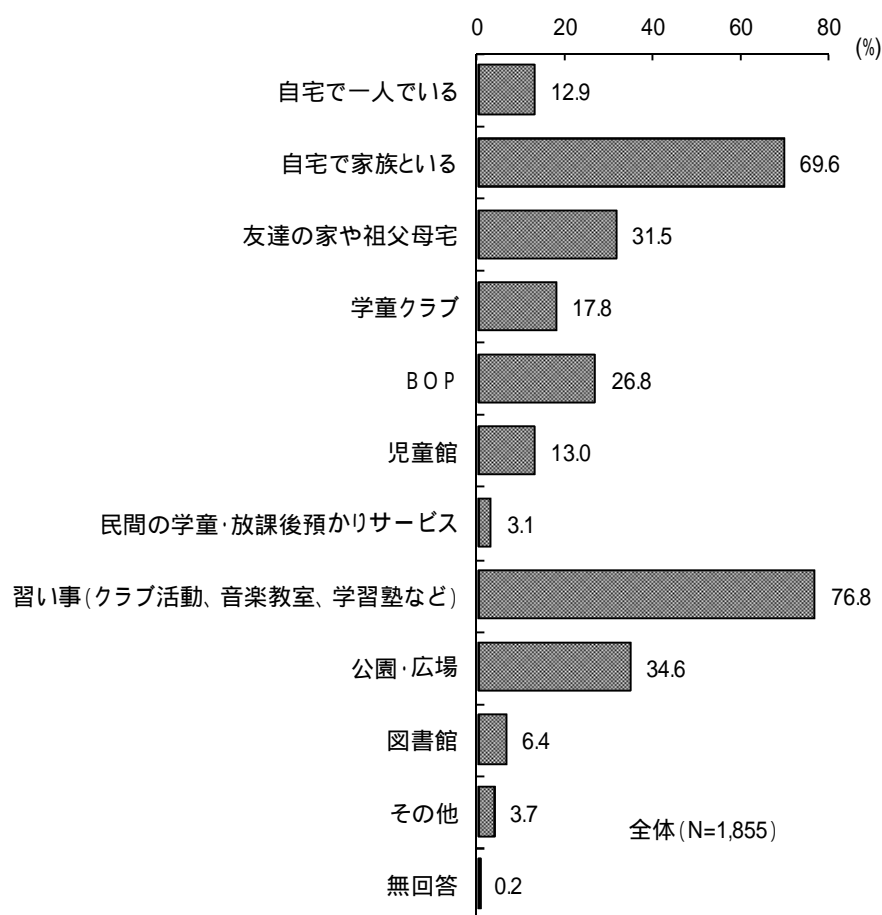


(3) 放課後の時間の過ごし方

放課後過ごしている場所(問9)

放課後過ごしている場所は、「習い事(クラブ活動、音楽教室、学習塾など)(76.8%)」、「自宅で家族といる(69.6%)」、「公園・広場(34.6%)」、「友達の家や祖父母宅(31.5%)」、「BOP(26.8%)」の順で多かった(図表2-3-1-)。

図表2-3-1- 放課後過ごしている場所(全体:複数回答)



学童クラブの利用終了時間

学童クラブの利用終了時間は、「18時以降(44.5%)」が最も多く、これに「17時(37.0%)」が続いている(図表2-3-1-)。

図表2-3-1- 学童クラブの利用希望終了時間(全体)
<学童クラブを利用していると回答した人>



放課後の時間の過ごし方、1週あたり日数

それぞれの放課後を過ごす場所を選択した人に、1週あたり日数をたずねたところ、『学童クラブ』では平均4.3日、『BOP』では平均1.9日、『習い事（クラブ活動、音楽教室、学習塾など）』では平均2.6日となっている（図表2-3-1- ）。

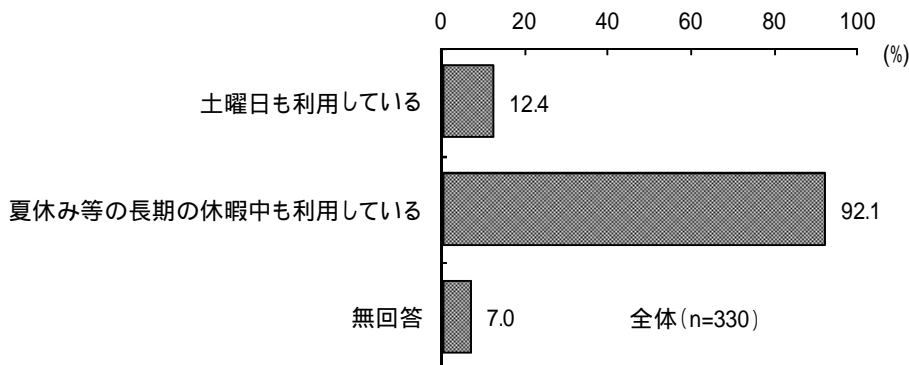
図表2-3-1- 放課後の時間の過ごし方、1週あたりの日数（全体）
 <それぞれの場所を選択した人>

		1日	2日	3日	4日	5日	無回答	平均日数
自宅で一人ている	(n= 239)	39.7	20.9	18.0	4.2	15.5	1.7	2.3日
自宅で家族といる	(n=1,291)	18.3	21.6	15.3	7.8	35.0	1.9	3.2日
友達の家や祖父母宅	(n= 585)	60.2	22.9	7.7	3.1	5.3	0.9	1.7日
学童クラブ	(n= 330)	2.4	7.0	12.7	13.0	61.2	3.6	4.3日
BOP	(n= 497)	48.3	27.0	12.7	5.2	4.4	2.4	1.9日
児童館	(n= 242)	55.8	23.1	9.5	4.1	3.7	3.7	1.7日
民間の学童・放課後預かりサービス	(n= 57)	26.3	29.8	8.8	8.8	26.3	0.0	2.8日
習い事(クラブ活動、音楽教室、学習塾など)	(n=1,424)	18.2	31.5	30.1	13.8	5.7	0.7	2.6日
公園・広場	(n= 641)	43.1	31.7	15.6	5.0	3.9	0.8	1.9日
図書館	(n= 119)	87.4	5.0	4.2	0.8	0.0	2.5	1.2日
その他	(n= 69)	21.7	24.6	23.2	5.8	17.4	7.2	2.7日

土曜、日曜・祝日や長期休暇中の利用状況（問9-1）

学童クラブの土曜、日曜・祝日や長期休暇中の利用状況は、「土曜日も利用している」が12.4%、「夏休み等の長期の休暇中も利用している」が92.1%となっている（図表2-3-2- ）。

図表2-3-2- 土曜、日曜・祝日や長期休暇中の利用状況（全体：複数回答）
 <学童クラブを利用していると回答した人>

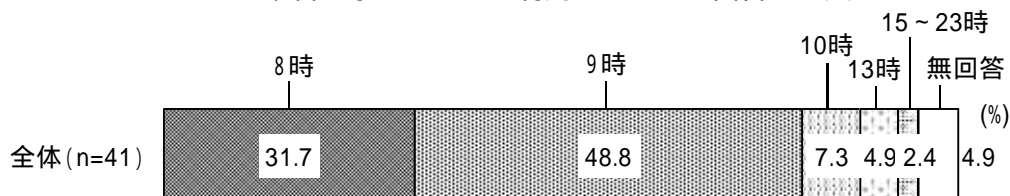


土曜日の利用開始時間帯

土曜日の利用開始時間帯は、「9時(48.8%)」が最も多く、「8時(31.7%)」が続いている(図表2-3-2-)。

図表2-3-2- 土曜日の利用開始時間帯(全体)

<土曜日も学童クラブを利用していると回答した人>

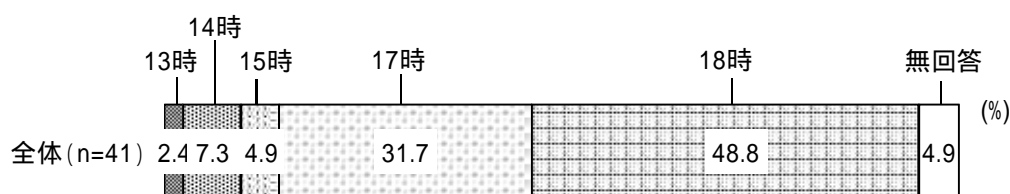


土曜日の利用終了時間帯

土曜日の利用終了時間帯は、「18時(48.8%)」が最も多く、「17時(31.7%)」が続いている(図表2-3-2-)。

図表2-3-2- 土曜日の利用終了時間帯(全体)

<土曜日も学童クラブを利用していると回答した人>

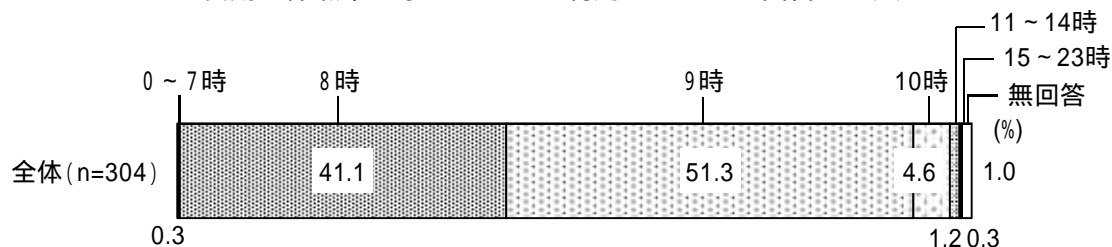


長期休暇中の利用開始時間帯

長期休暇中の利用開始時間帯は、「9時(51.3%)」が最も多く、「8時(41.1%)」が続いている(図表2-3-2-)。

図表2-3-2- 長期休暇中の利用開始時間帯(全体)

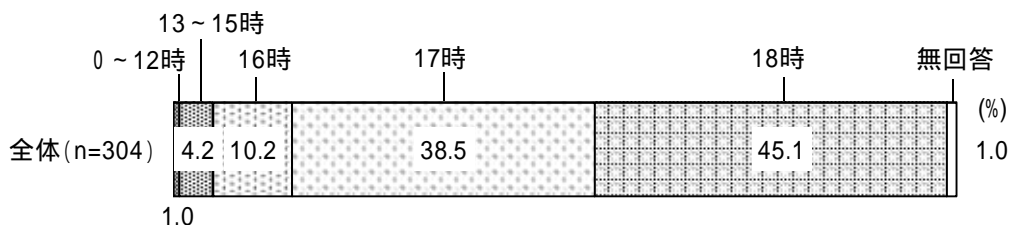
<長期の休暇中も学童クラブを利用していると回答した人>



長期休暇中の利用終了時間帯

長期休暇中の利用終了時間帯は、「18時（45.1%）」が最も多く、「17時（38.5%）」が続いている（図表2-3-2- ）。

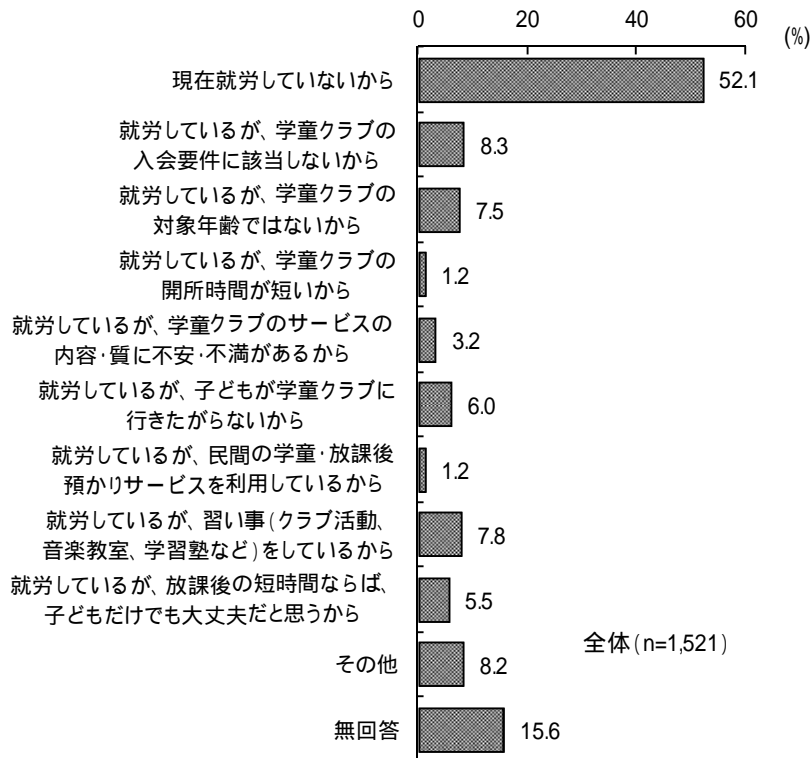
図表2-3-2- 長期休暇中の利用終了時間帯（全体）
 <長期の休暇中も学童クラブを利用していると回答した人>



学童クラブを利用していない理由（問9-2）

学童クラブを利用していない理由は、「現在就労していないから（52.1%）」が最も多く、これに「就労しているが、学童クラブの入会要件に該当しないから（8.3%）」が続いている（図表2-3-3）。

図表2-3-3 学童クラブを利用していない理由（全体：複数回答）
 <学童クラブを利用していない人>

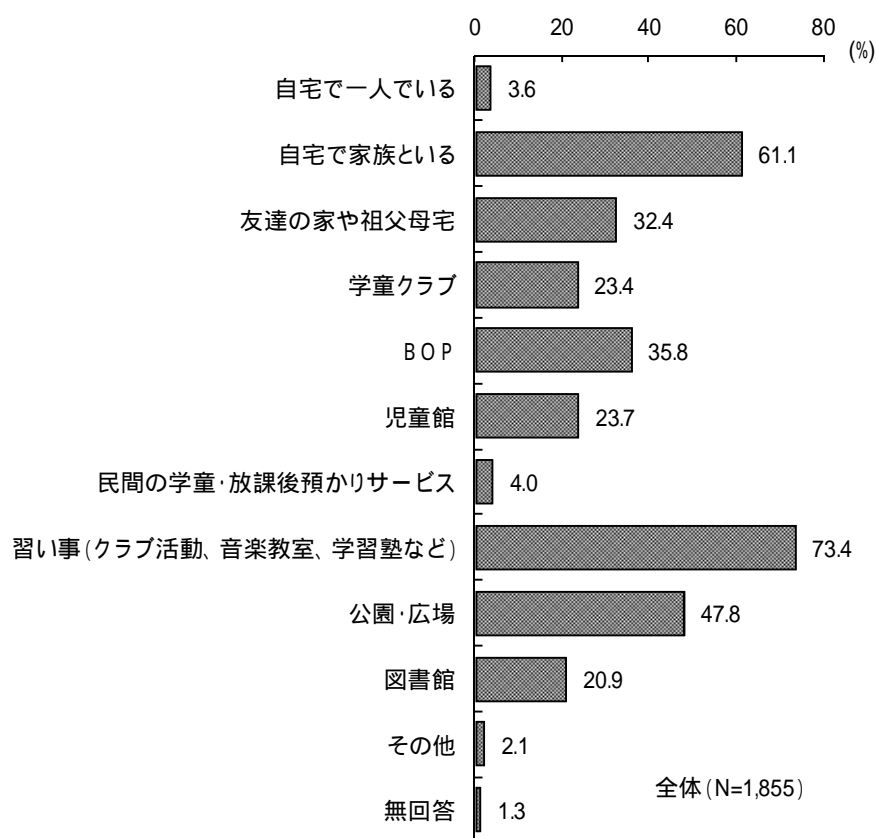


(4) 放課後の時間の過ごし方の希望

放課後過ごさせたい場所 (問 10)

放課後過ごさせたい場所は、「習い事(クラブ活動、音楽教室、学習塾など)(73.4%)」、「自宅で家族といる(61.1%)」、「公園・広場(47.8%)」、「BOP(35.8%)」、「友達の家や祖父母宅(32.4%)」が多かった(図表2-4-1-)。

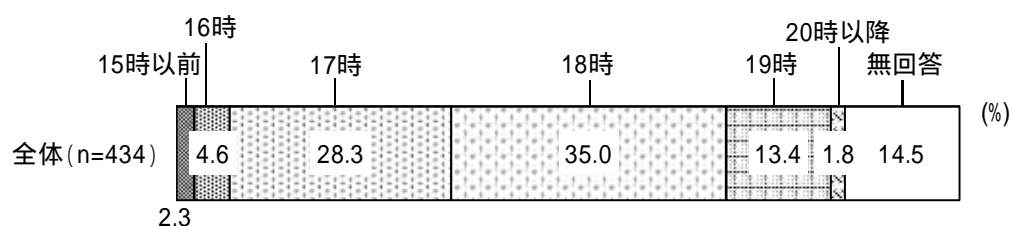
図表2-4-1- 放課後過ごさせたい場所(全体:複数回答)



学童クラブの希望利用終了時間

学童クラブの希望利用終了時間は、「18時(35.0%)」、「17時(28.3%)」、「19時(13.4%)」の順であった(図表2-4-1-)。

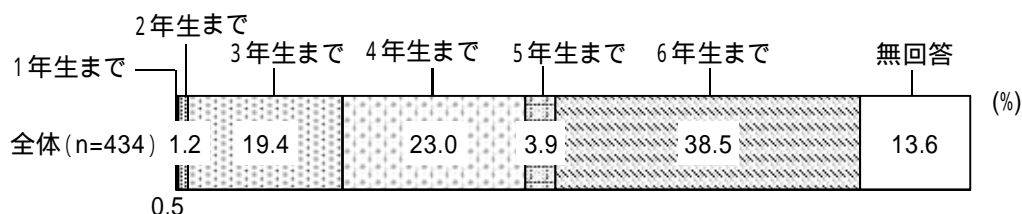
図表2-4-1- 学童クラブの希望利用終了時間
<学童クラブの利用意向がある人>(全体)



学童クラブの希望利用学年

学童クラブの希望利用学年は、「6年生まで（38.5%）」が最も多く、これに「4年生まで（23.0%）」、「3年生まで（19.4%）」が続いている（図表2-4-1- ）。

図表2-4-1- 学童クラブの利用希望学年（全体）
 <学童クラブの利用意向がある人>



放課後の時間の過ごし方の希望、1週あたり日数

それぞれの放課後を過ごす場所を希望した人に、1週あたり日数をたずねたところ、『学童クラブ』では平均3.9日、『BOP』では平均2.2日、『習い事（クラブ活動、音楽教室、学習塾など）』では平均2.5日となっている（図表2-4-1- ）。

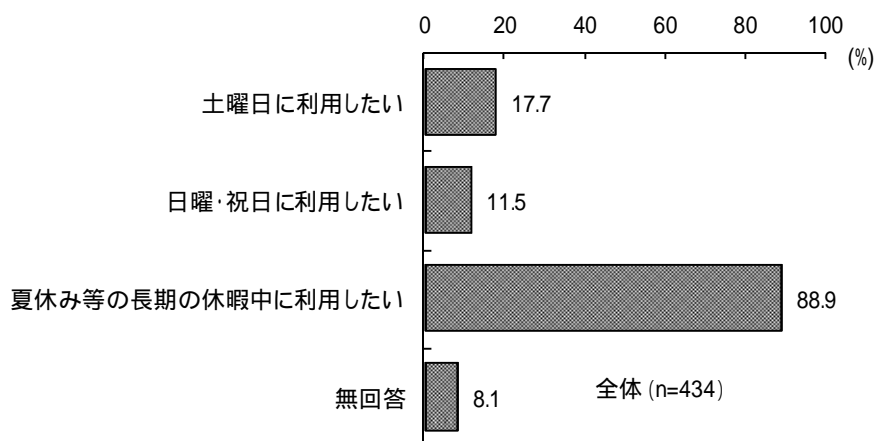
図表2-4-1- 放課後の時間の過ごし方の希望、1週あたり日数（全体）
 <それぞれ希望する人>

	希望する日数 (%)							平均日数
	1日	2日	3日	4日	5日	無回答		
自宅で一人である (n= 66)	43.9	28.8	9.1	0.0	9.1	9.1	1.9日	
自宅で家族といる (n=1,134)	18.3	25.7	18.3	4.9	29.6	3.1	3.0日	
友達の家や祖父母宅 (n= 601)	50.1	31.8	10.5	0.5	4.0	3.2	1.7日	
学童クラブ (n= 434)	3.7	11.1	23.3	9.4	44.2	8.3	3.9日	
BOP (n= 664)	32.8	34.6	18.7	3.5	7.5	2.9	2.2日	
児童館 (n= 439)	46.0	26.7	13.2	1.8	3.2	9.1	1.8日	
民間の学童・放課後預かりサービス (n= 75)	16.0	34.7	16.0	5.3	25.3	2.7	2.9日	
習い事(クラブ活動、音楽教室、学習塾など) (n=1,362)	14.4	38.1	32.6	9.1	3.7	2.1	2.5日	
公園・広場 (n= 886)	28.9	35.8	21.0	4.6	7.0	2.7	2.2日	
図書館 (n= 388)	74.0	17.8	5.7	0.0	0.5	2.1	1.3日	
その他 (n= 39)	10.3	23.1	23.1	12.8	20.5	10.3	3.1日	

土曜、日曜・祝日や長期休暇中の利用希望（問 10 - 1）

土曜、日曜・祝日や長期休暇中の利用希望は、「夏休み等の長期の休暇中に利用したい（88.9%）」が最も多い（図表 2 - 4 - 2 - ）。

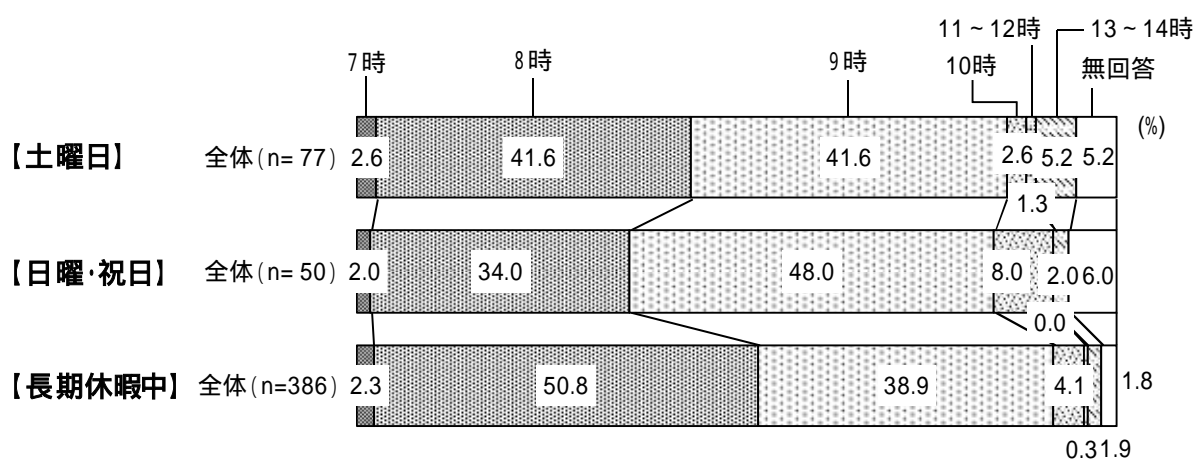
図表 2 - 4 - 2 - 土曜、日曜・祝日や長期休暇中の利用希望（全体：複数回答）
 <学童クラブの利用意向がある人>



利用開始希望時間帯

利用開始希望時間帯は、土曜日では「8時（41.6%）」と「9時（41.6%）」が同数で、日曜・祝日では「9時（48.0%）」が「8時（34.0%）」を上回り、長期期間中では「8時（50.8%）」が「9時（38.9%）」を上回っている（図表 2 - 4 - 2 - ）。

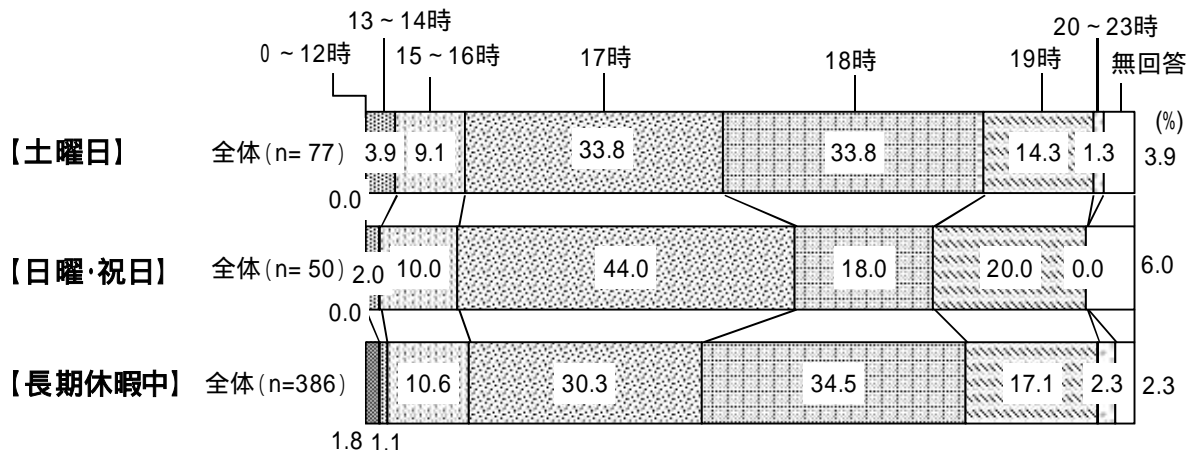
図表 2 - 4 - 2 - 利用開始希望時間帯（全体）
 <学童クラブの利用意向がある人>



利用終了希望時間帯

利用終了希望時間帯は、土曜日では「17時(33.8%)」と「18時(33.8%)」が同数で、日曜・祝日では「17時(44.0%)」が「18時(18.0%)」を上回り、長期期間中では「18時(34.5%)」が「17時(30.3%)」を上回っている(図表2-4-2-)。

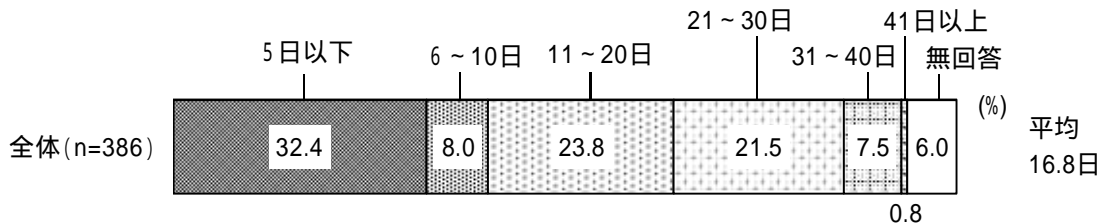
図表2-4-2- 利用終了希望時間帯(全体)
 <学童クラブの利用意向がある人>



長期休暇中の利用希望日数

長期休暇中の利用希望日数は、「5日以下(32.4%)」、「11~20日(23.8%)」、「21~30日(21.5%)」の順で多く、平均は16.8日であった(図表2-4-2-)。

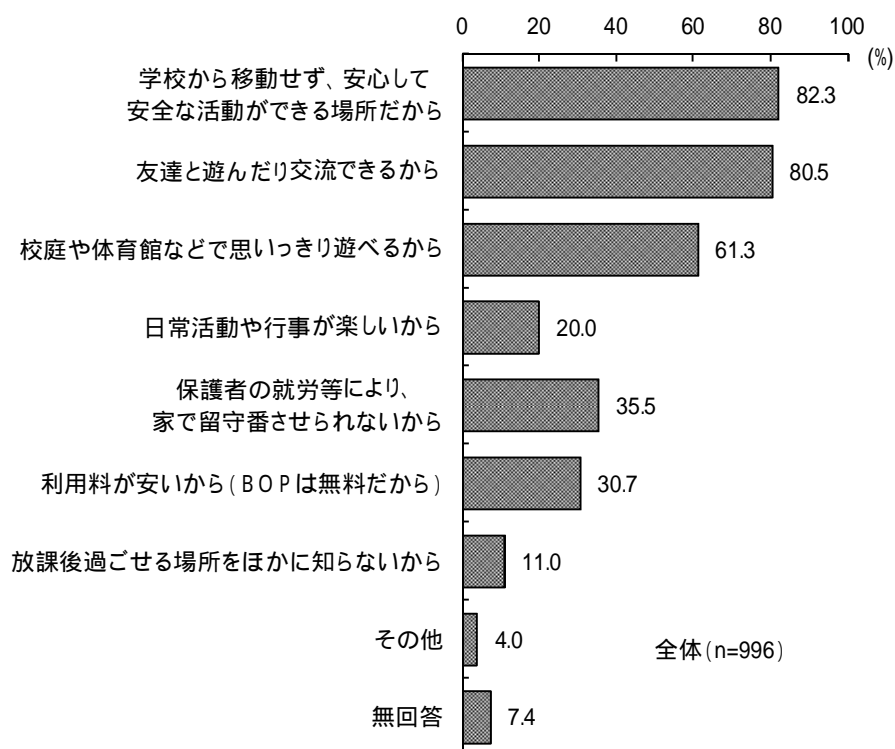
図表2-4-2- 長期休暇中の利用希望日数(全体)
 <学童クラブの利用意向がある人>



学童クラブ・BOPを利用したい理由（問10-2）

学童クラブ・BOPを利用したい理由としては、「学校から移動せず、安心して安全な活動ができる場所だから（82.3%）」、「友達と遊んだり交流できるから（80.5%）」、「校庭や体育館などで思いっきり遊べるから（61.3%）」、「保護者の就労等により、家で留守番させられないから（35.5%）」、「利用料が安いから（BOPは無料だから）（30.7%）」などが多かった（図表2-4-3）。

図表2-4-3 学童クラブ・BOPを利用したい理由（全体：複数回答）
 <学童クラブ・BOPの利用意向がある人>

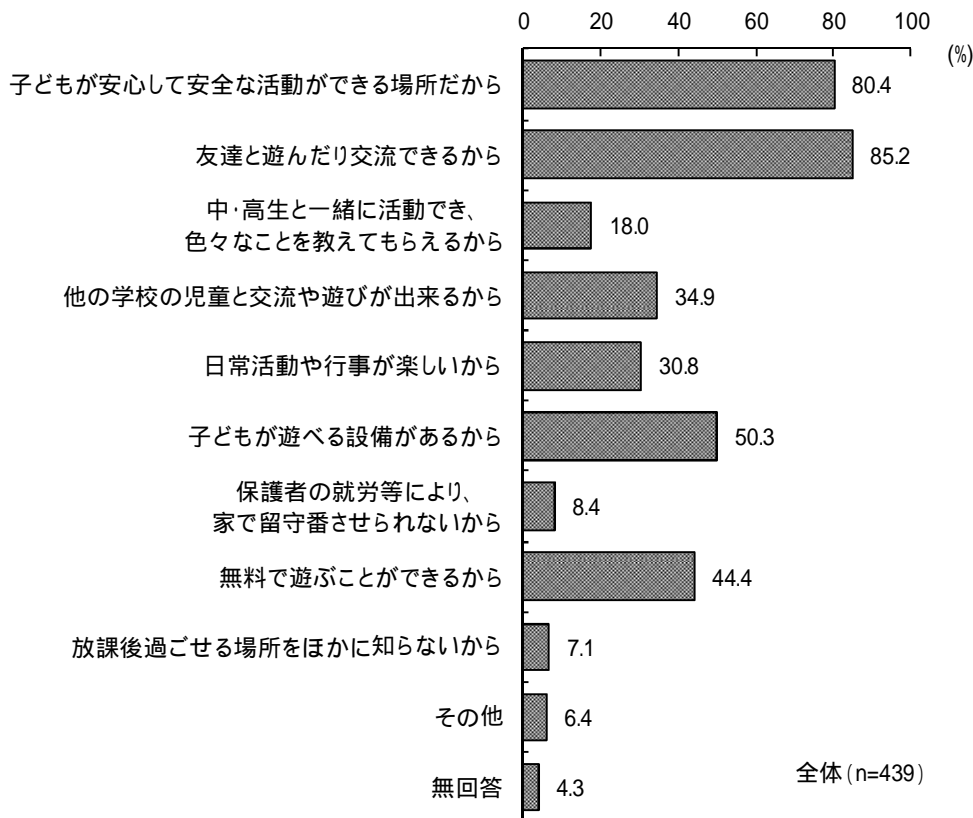


児童館を利用したい理由（問 10 - 3）

児童館を利用したい理由は、「友達と遊んだり交流できるから（85.2%）」、「子どもが安心して安全な活動ができる場所だから（80.4%）」、「子どもが遊べる設備があるから（50.3%）」、「無料で遊ぶことができるから（44.4%）」の順となっている（図表 2 - 4 - 4）。

図表 2 - 4 - 4 児童館を利用したい理由（全体：複数回答）

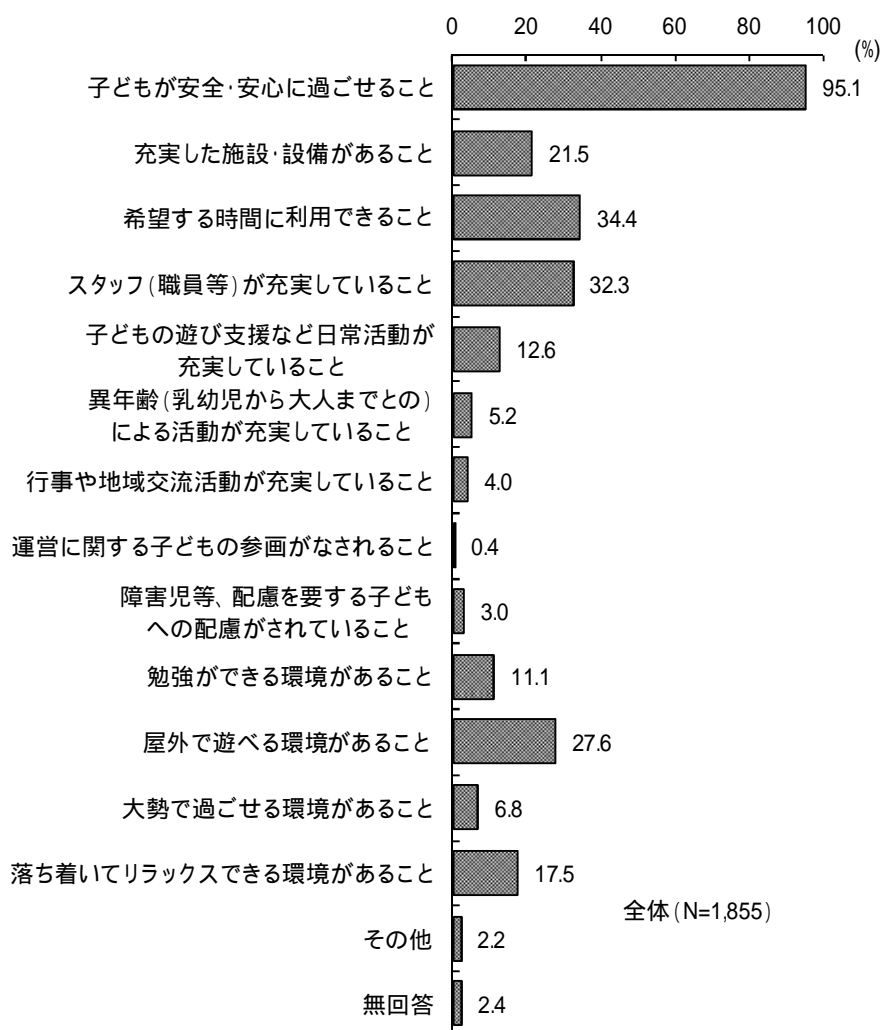
< 児童館の利用意向がある人 >



子どもが放課後過ごす場所として重視していること（問 11）

子どもが放課後過ごす場所として重視していることは、「子どもが安全・安心に過ごせること（95.1%）」、「希望する時間に利用できること（34.4%）」、「スタッフ（職員等）が充実していること（32.3%）」、「屋外で遊べる環境があること（27.6%）」、「充実した施設・設備があること（21.5%）」などが多かった（図表 2 - 4 - 5）。

図表 2 - 4 - 5 子どもが放課後過ごす場所として重視していること
（全体：複数回答（3つまで））

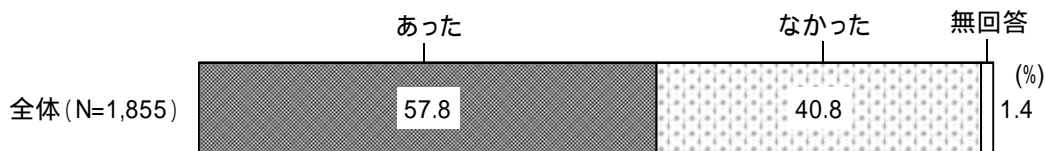


(5) 病気やケガの時の対応

この1年間に、病気やケガで学校を休まなければならなかった経験の有無 (問12)

この1年間に、病気やケガで学校を休まなければならなかった経験の有無をたずねたところ、「あった(57.8%)」とするものが「なかった(40.8%)」とするものを上回った(図表2-5-1)。

図表2-5-1 この1年間に、病気やケガで学校を休まなければならなかった経験の有無 (全体)

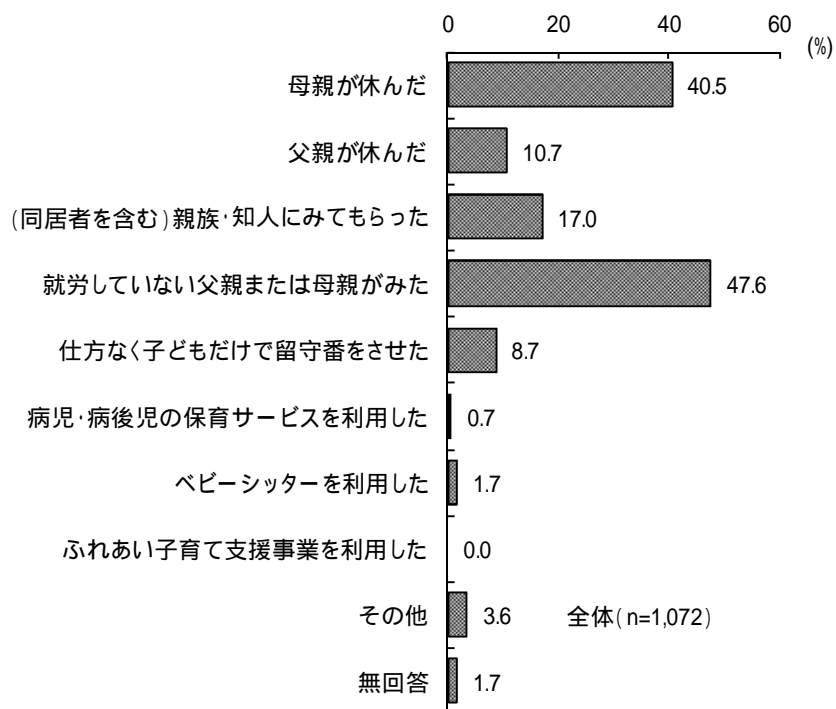


対処方法 (問12-1)

休んだ人で、学校や学童クラブなどが利用できなかった時の対処方法は、「就労していない父親または母親がみた(47.6%)」、「母親が休んだ(40.5%)」、「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった(17.0%)」、「父親が休んだ(10.7%)」の順が多かった(図表2-5-2)。

図表2-5-2 対処方法 (全体：複数回答)

<この1年間に、病気やケガで学校や学童クラブなどを利用できなかったことがある人>



対処方法別日数

それぞれの対処方法をとった人に、その年間日数をたずねたところ、『母親が休んだ』では平均3.7日となっている（図表2-5-2- ）。

図表2-5-2- 対処方法別日数（全体）

<それぞれ対処方法を活用した人>

	（%）											平均日数
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日以上	無回答	
母親が休んだ (n=434)	25.3	25.6	18.2	5.1	10.1	11.3	0.7	0.9	0.7	2.1	3.7日	
父親が休んだ (n=115)	43.5	27.0	15.7	6.1	5.2	0.9	0.0	0.0	0.0	1.7	2.1日	
(同居を含む)親族・知人にみてもらった (n=182)	25.8	20.9	15.9	6.0	13.2	8.8	1.1	0.5	1.1	6.6	4.3日	
就労していない父親または母親がみた (n=510)	16.5	16.1	17.5	7.6	14.7	19.4	2.4	1.6	1.2	3.1	5.5日	
仕方なく子どもだけで留守番をさせた (n= 93)	51.6	17.2	10.8	9.7	3.2	3.2	0.0	1.1	0.0	3.2	2.3日	
病児・病後児の保育サービスを利用した (n= 8)	50.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6日	
ベビーシッターを利用した (n= 18)	38.9	22.2	5.6	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1日	
ふれあい子育て支援事業を利用した (n= 0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他 (n= 39)	15.4	28.2	12.8	12.8	5.1	7.7	0.0	0.0	2.6	15.4	14.1日	

病児・病後児の保育サービスの利用意向（問12-2）

学校や学童クラブなどが利用できなかった時の対処方法で、両親が仕事を休んだり、親族・知人にみてもらったり、子どもだけで留守番したりした人に対して、病児・病後児の保育サービスを利用したいと思ったことの有無をたずねたところ、「利用したいとは思わない（82.5%）」が多数を占めた（図表2-5-3- ）。

図表2-5-3- 病児・病後児の保育サービスの利用意向（全体）

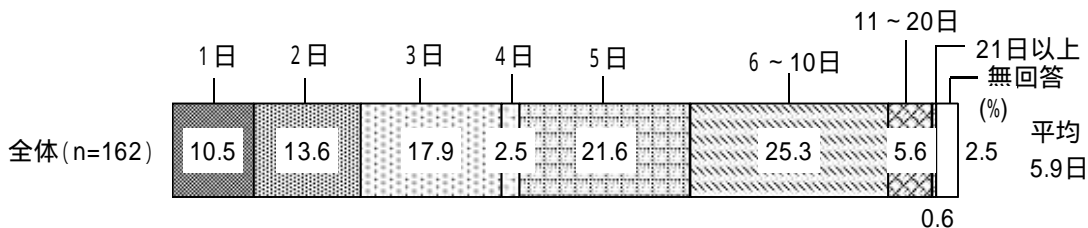
<この1年間に、病気やケガで学校や学童クラブなどを利用できなかった時に、両親が仕事を休んだり、親族・知人にみてもらったり、子どもだけで留守番したりした人>



利用したい1年間あたりの日数

利用したい1年間あたりの日数は、「6～10日（25.3%）」、「5日（21.6%）」などが多く、平均で5.9日であった（図表2-5-3- ）。

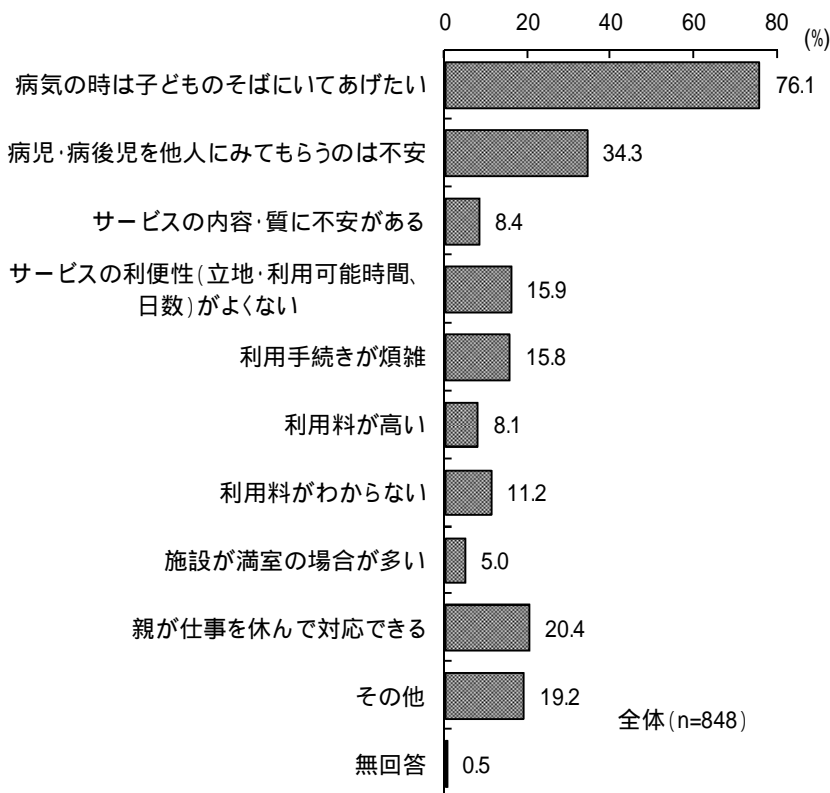
図表2-5-3- 利用したい1年間あたりの日数（全体）
 <できれば病児・病後児の保育サービスを利用したかった人>



利用したくない理由（問12-3）

利用したくない理由は、「病気の時は子どものそばにいてあげたい（76.1%）」、「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安（34.3%）」が多かった（図表2-5-4）。

図表2-5-4 利用したくない理由（全体：複数回答）
 <病児・病後児の保育サービスを利用したくない人>

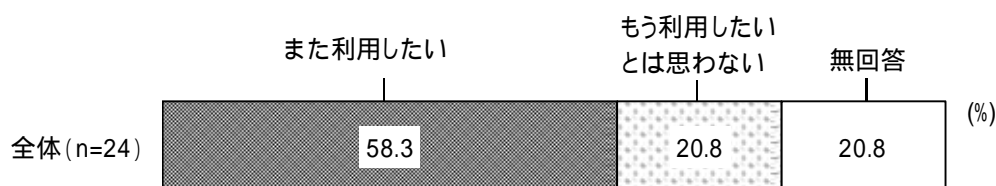


今後の利用希望（問 12 - 4）

この1年間、病気やケガで学校や学童クラブなどを利用できなかった時に、病児・病後児の保育サービス、ベビーシッター、ふれあい子育て支援事業等のサービスを利用した人に対して、今後の利用希望をたずねたところ、「また利用したい（58.3%）」が「もう利用したいとは思わない（20.8%）」を上回った（図表2 - 5 - 5 - ）。

図表2 - 5 - 5 - 今後の利用希望（全体）

<この1年間に、病気やケガで学校や学童クラブなどを利用できなかった時に、病児・病後児の保育サービス、ベビーシッター、ふれあい子育て支援事業等のサービスを利用した人>

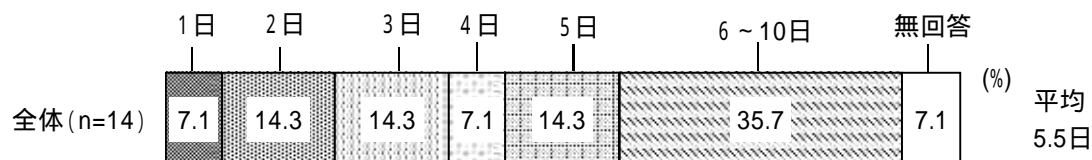


利用したい1年間当たりの日数

前問で「また利用したい」と答えた人に、利用したい1年間当たりの日数をたずねたところ、平均で5.5日であった（図表2 - 5 - 5 - ）。

図表2 - 5 - 5 - 利用したい1年間当たりの日数（全体）

<また利用したいと回答した人>

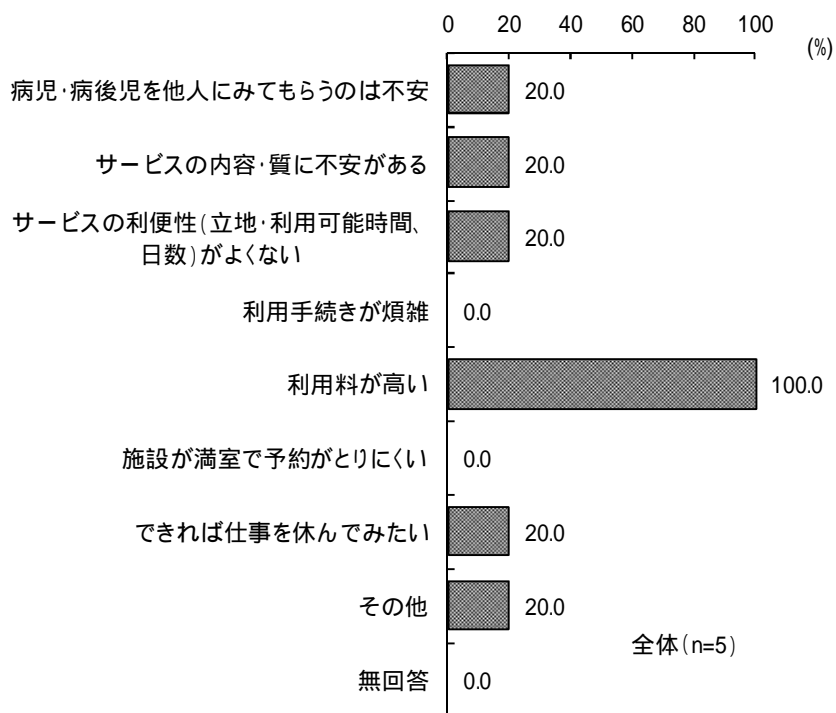


利用したいと思わない理由（問 12 - 5）

「利用したいと思わない」人の理由は「料金が高い（100.0%）」であった（図表 2 - 5 - 6）。

図表 2 - 5 - 6 利用したいと思わない理由（全体：複数回答）

<この1年間に、病気やケガで学校や学童クラブなどを利用できなかった時に、病児・病後児の保育サービス、ベビーシッター、ふれあい子育て支援事業等のサービスを利用したけれど、今後は利用したくない人>

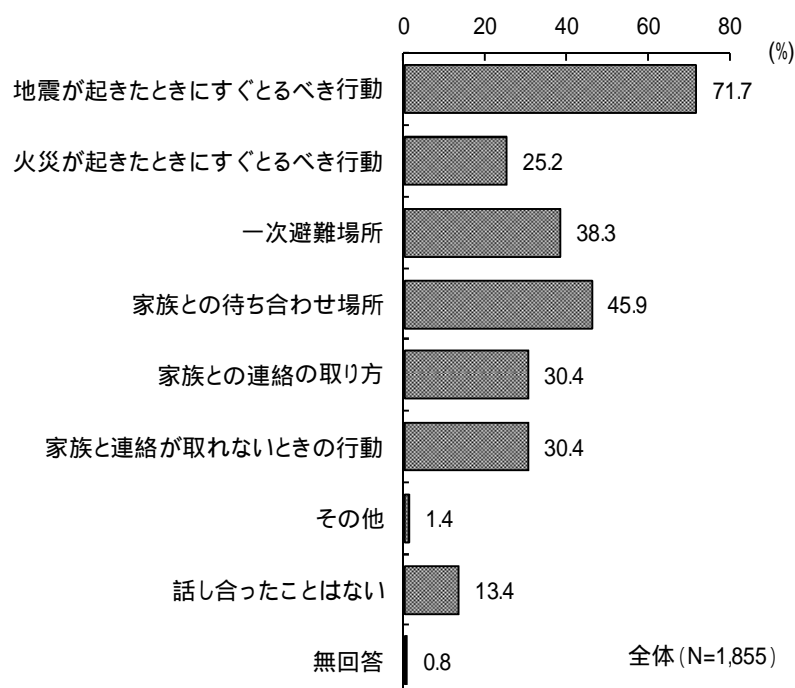


(6) 災害時の対応

災害時の対応のために、子どもと話し合ったこと(問13)

災害時の対応のために、子どもと話し合ったことは、「地震が起きたときにすぐとるべき行動(71.7%)」、「家族との待ち合わせ場所(45.9%)」、「一次避難場所(38.3%)」の順が多かった(図表2-6-1)。

図表2-6-1 災害時の対応のために、子どもと話し合ったこと(全体:複数回答)

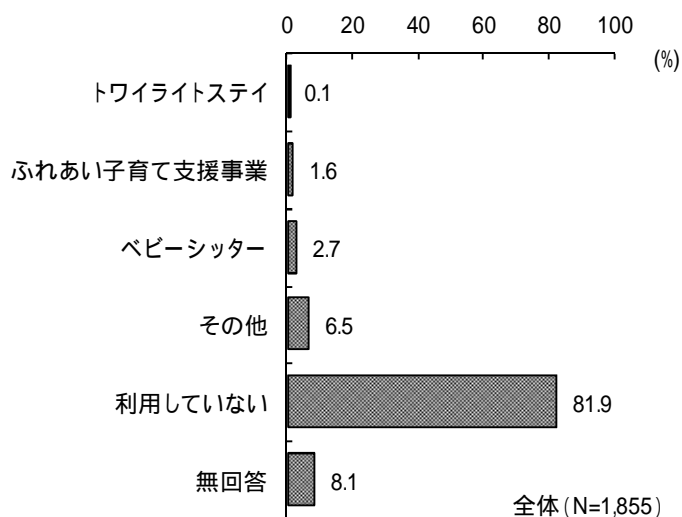


(7) 子どもの不定期な一時預かり事業の利用

この1年間、自分の時間等のために子どもを家族・親族、友人・知人以外に一時的に預けたときに利用した事業（問14）

この1年間、自分の時間等のために子どもを家族・親族、友人・知人以外に一時的に預けたときに利用した事業の有無とその内容についてたずねたところ、利用していないとする人が全体の81.9%を占めた（図表2-7-1-）。

図表2-7-1- この1年間、自分の時間等のために子どもを家族・親族、友人・知人以外に一時的に預けたときに利用した事業（全体：複数回答）



この1年間の一時預かりの利用日数<それぞれ利用した人>

それぞれの一時預かり事業を利用した人に、この1年間の利用日数をたずねたところ、『ふれあい子育て支援事業』では平均 19.3 日、『ベビーシッター』では平均 15.5 日となっている(図表 2 - 7 - 1 -)。

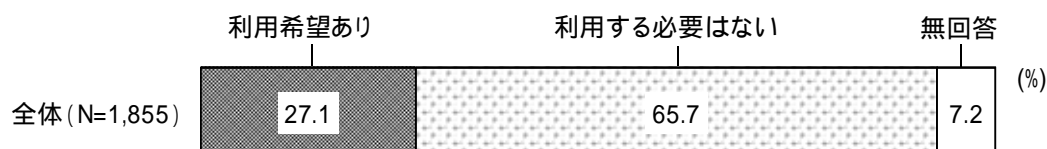
図表 2 - 7 - 1 - この1年間の一時預かりの利用日数(全体)
<それぞれ利用した人>

		(%)										平均日数	
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日以上	無回答	
トワイライトステイ	(n= 2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5日
ふれあい子育て支援事業	(n= 30)	16.7	6.7	13.3	6.7	3.3	16.7	6.7	6.7	23.3	0.0	0.0	19.3日
ベビーシッター	(n= 50)	12.0	10.0	14.0	0.0	8.0	22.0	14.0	6.0	14.0	0.0	0.0	15.5日
その他	(n=120)	10.8	10.0	17.5	5.0	10.0	18.3	2.5	3.3	11.7	10.8	0.0	15.5日

一時預かりの今後の利用希望の有無(問 15)

一時預かりを今は利用していないが、できれば利用したい人の割合は、27.1%であり、「利用する必要はない(65.7%)」を下回った(図表 2 - 7 - 2 -)。

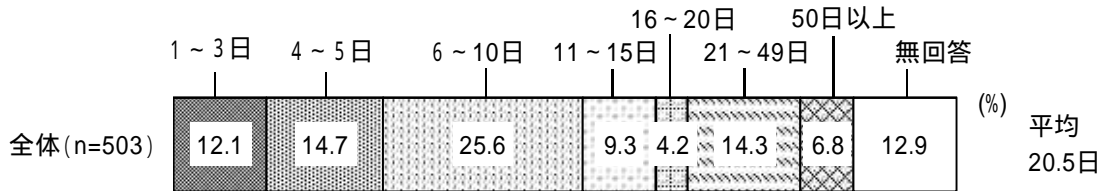
図表 2 - 7 - 2 - 一時預かりの今後の利用希望の有無(全体)



1年間当たりの利用希望日数

1年間当たりの利用希望日数は、「6～10日(25.6%)」、「4～5日(14.7%)」などが多く、平均は20.5日であった(図表2-7-2-)。

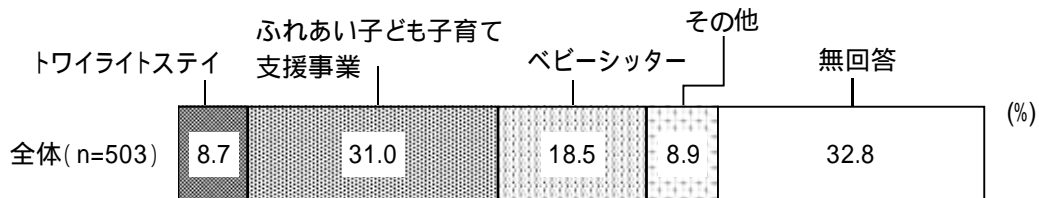
図表2-7-2- 1年間当たりの利用希望日数(全体)
 <一時預かりの利用希望がある人>



最も利用したい事業

今後一時預かりの利用希望がある人の、最も利用したい事業は、「ふれあい子育て支援事業(31.0%)」、「ベビーシッター(不定期利用に限る)(18.5%)」、「トワイライトステイ(8.7%)」の順であった(図表2-7-2-)。

図表2-7-2- 最も利用したい事業
 <一時預かりの利用希望がある人>(全体)

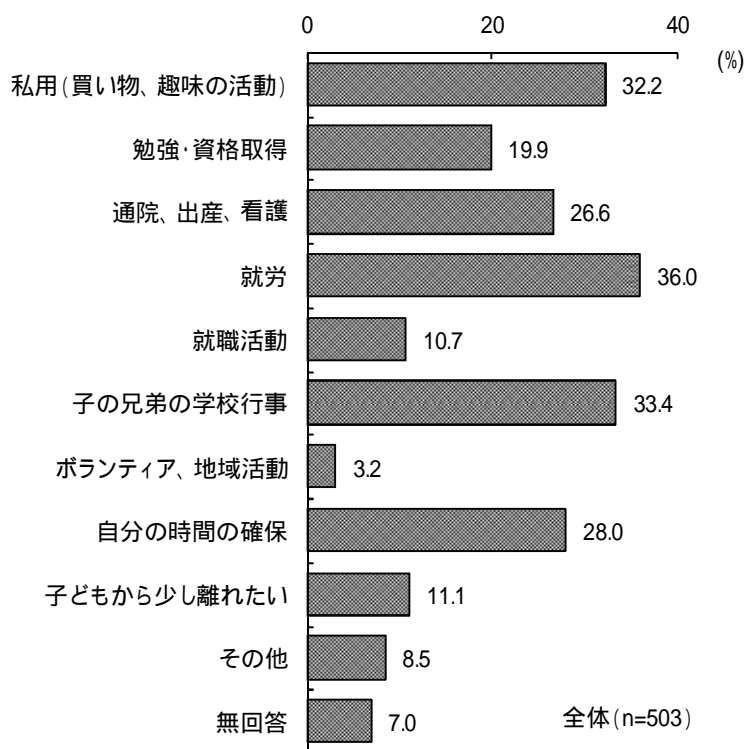


利用したい目的

利用したい目的は、「就労（36.0%）」、「子の兄弟の学校行事（33.4%）」、「私用（買い物、趣味の活動）（33.2%）」、「自分の時間の確保（28.0%）」、「通院、出産、看護（26.6%）」などが多かった（図表2-7-2- ）。

図表2-7-2- 利用したい目的（全体：複数回答）

<一時預かりの利用希望がある人>



この1年間、保護者の状況により、泊りがけで家族以外に子どもを預けなければいけなかったことの有無（問16）

この1年間、保護者の状況により、泊りがけで家族以外に子どもを預けなければいけなかったことの有無は、「なかった（79.9%）」が「あった（17.8%）」を上回った（図表2-7-3- ）。

図表2-7-3- この1年間、保護者の状況により、泊りがけで家族以外に子どもを預けなければいけなかったことの有無（全体）

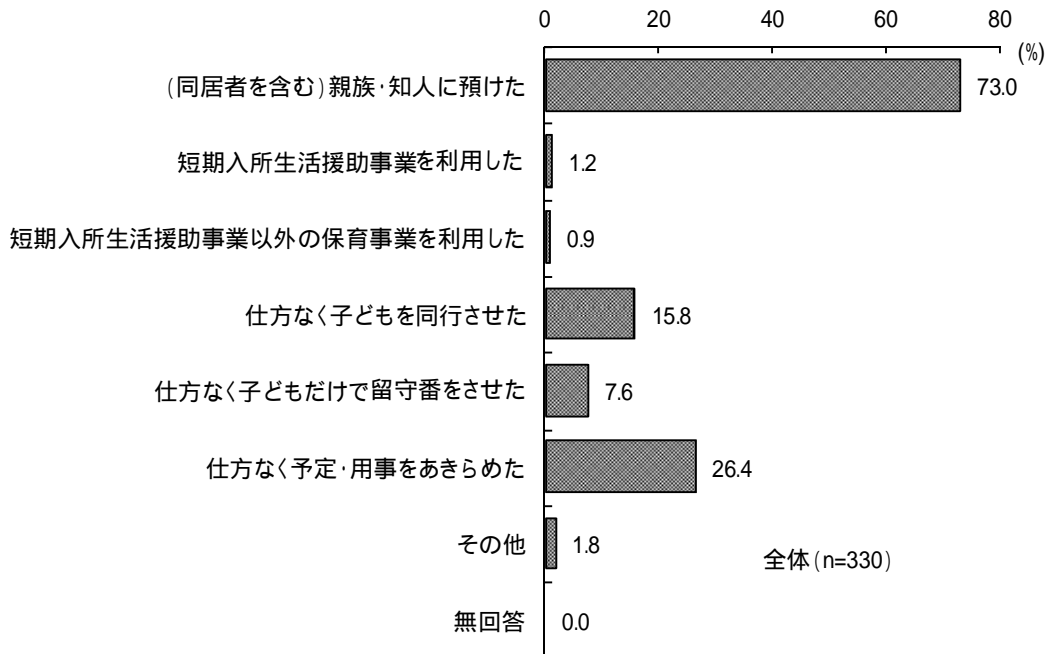


対処方法

家族以外での宿泊を伴う預かり状況があった場合のこの1年間の対処方法は、「(同居者を含む)親族・知人に預けた(73.0%)」、「仕方なく予定・用事をあきらめた(26.4%)」、「仕方なく子どもを同行させた(15.8%)」などが多かった(図表2-7-3-)。

図表2-7-3- 対処方法(全体:複数回答)

<あったと回答した人>



この1年間、泊りがけで家族以外に子どもを預けたときの対処方法別日数

それぞれの対処方法をとった人に、この1年間、泊りがけで家族以外に子どもを預けたときの対処方法別日数をたずねたところ、『(同居者を含む)親族知人に預けた』は11泊以上が12.5%であり、平均は9.5泊となっている。『仕方なく子どもを同行させた』は平均2.3泊、『仕方なく子どもだけで留守番させた』は平均2.9泊、『仕方なく予定・用事をあきらめた』は平均3.3泊となっている(図表2-7-3-)。

図表2-7-3- この1年間、泊りがけで家族以外に子どもを預けたときの対処方法別日数
(全体) <それぞれ対処方法を活用した人>

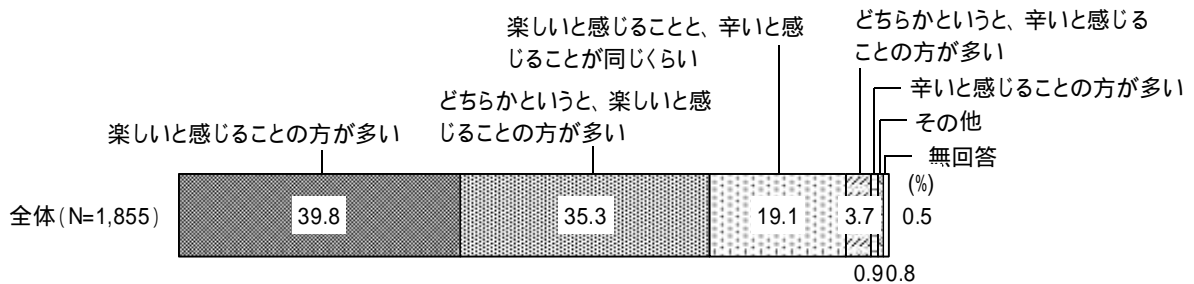
		(%)										平均泊数
		1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6 } 1 0泊	1 1 } 1 5泊	1 6 } 2 0泊	2 1 泊以上	無回答	
(同居者を含む)親族・知人に預けた	(n=239)	20.3	19.5	11.2	2.1	12.9	17.8	1.7	3.3	7.5	3.7	9.5泊
短期入所生活援助事業を利用した	(n= 4)	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	7.5泊
短期入所生活援助事業以外の保育事業を利用した	(n= 3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	6.5泊
仕方なく子どもを同行させた	(n= 52)	30.8	23.1	17.3	5.8	1.9	3.8	0.0	0.0	0.0	17.3	2.3泊
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	(n= 25)	16.0	20.0	8.0	0.0	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0	44.0	2.9泊
仕方なく予定・用事をあきらめた	(n= 87)	26.4	18.4	3.4	0.0	11.5	5.7	0.0	0.0	1.1	33.3	3.3泊
その他	(n= 6)	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	77.2泊

(8) 子育て全般

子育てについて楽しいと感じる程度 (問 17)

子育てについて楽しいと感じる程度は、「楽しいと感じることの方が多い (39.8%)」、「どちらかという、楽しいと感じることの方が多い (35.3%)」を合わせて75.1%であり、全体の7割以上の方が楽しいと思うことの方が多いと感じている (図表2 - 8 - 1)。

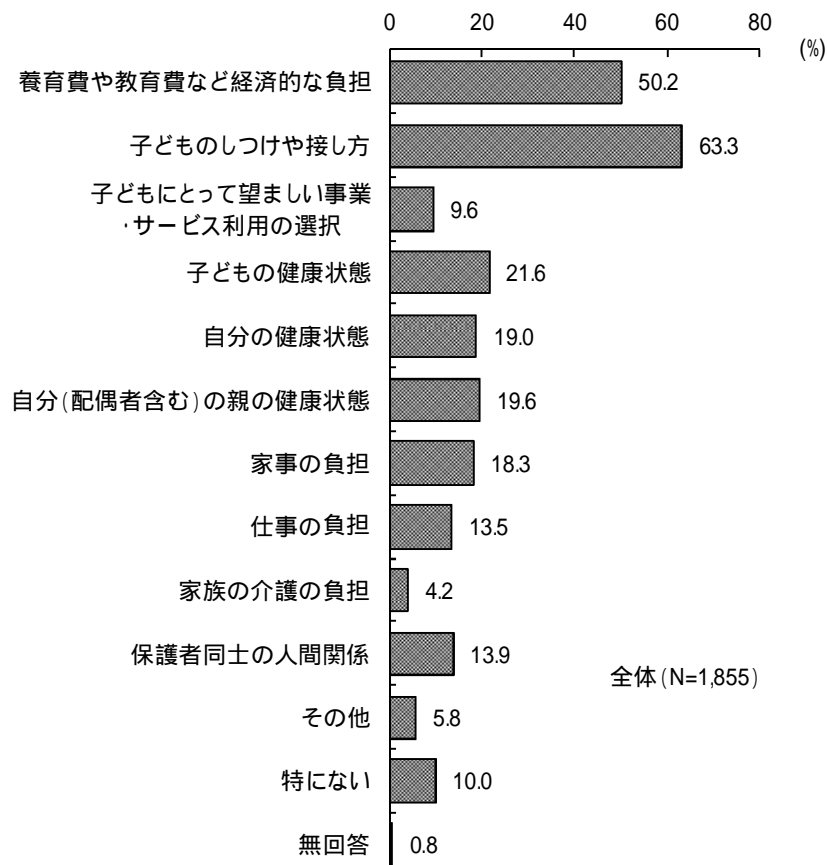
図表2 - 8 - 1 子育てについて楽しいと感じる程度 (全体)



子育てについての心配ごとや悩みごと (問 18)

子育ての心配ごとや悩みごとは、「子どものしつけや接し方 (63.3%)」、「養育費や教育費など経済的な負担 (50.2%)」、「子どもの健康状態 (21.6%)」の順で多くなっている (図表2 - 8 - 2)。

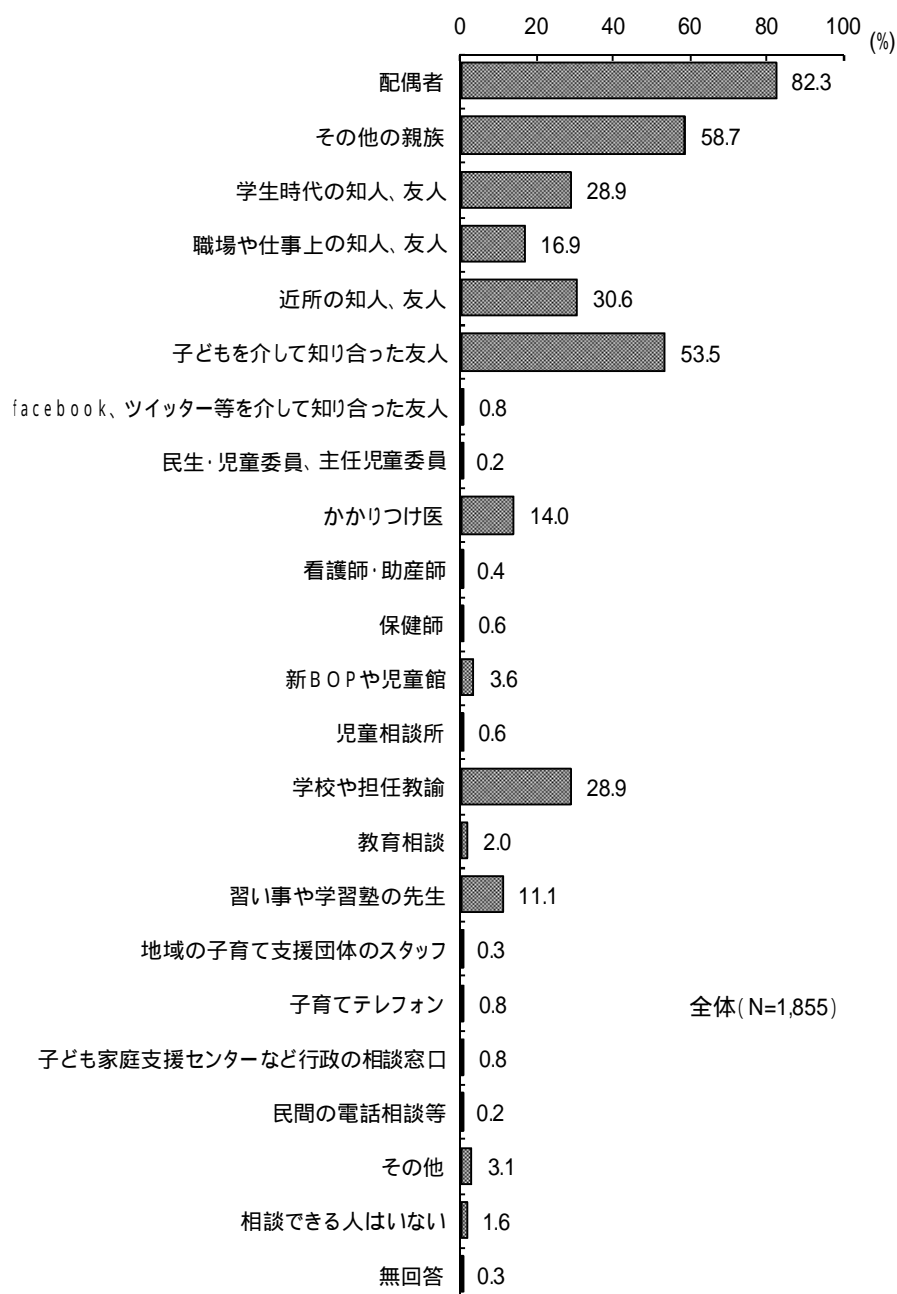
図表2 - 8 - 2 子育てについての心配ごとや悩みごと (全体：複数回答)



子育てについての心配ごとや悩みごとの相談先（問 19）

子育てについての心配や悩み事の相談先は、「配偶者（82.3%）」、「その他の親族（58.7%）」、「子どもを介して知り合った友人（53.5%）」、「近所の知人、友人（30.6%）」、「学生時代の知人、友人（28.9%）」、「学校や担任教諭（28.9%）」などが多くなっている（図表 2 - 8 - 3）。

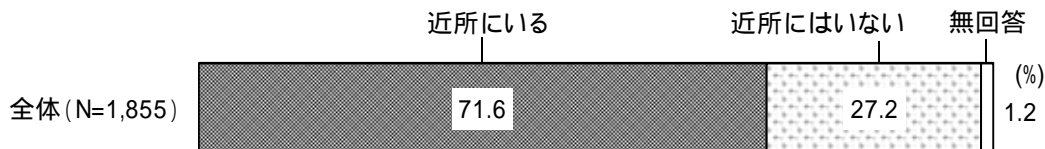
図表 2 - 8 - 3 子育てについての心配ごとや悩みごとの相談先（全体：複数回答）



災害時に家族以外で子どもの手助けをしてくれる近所の友人・知人の有無 (問 20)

災害時に家族以外で子どもの手助けしてくれる近所の知人・友人の有無をたずねたところ、「近所にいる(71.6%)」という回答が「近所にはいない(27.2%)」を上回った(図表2-8-4)。

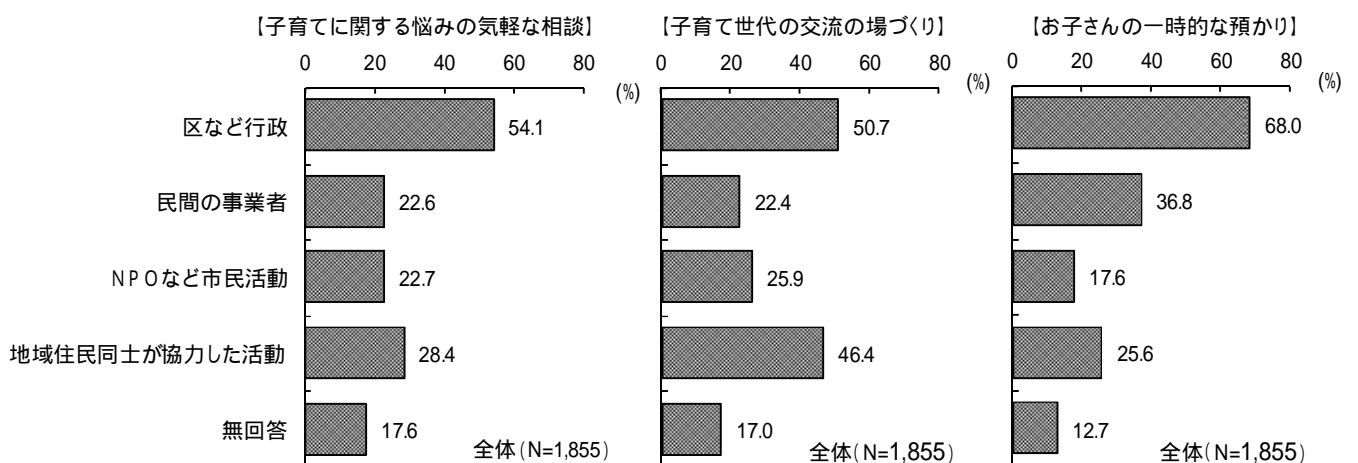
図表2-8-4 災害時に家族以外で子どもの手助けをしてくれる近所の友人・知人の有無(全体)



子育て支援利用希望(問 21)

子育て支援を行うべき主体について、『子育てに関する悩みの気軽な相談』、『子育て世代の交流の場づくり』、『お子さんの一時的な預かり』のそれぞれについてたずねたところ、いずれについても「区など行政(それぞれ54.1%、50.7%、68.0%)」とする回答が最も多かった。『子育てに関する悩みの気軽な相談』と『子育て世代の交流の場づくり』に関して二番目に多かったのは、「地域住民同士が協力した活動(それぞれ28.4%、46.4%)」であり、『お子さんの一時的な預かり』に関して二番目に多かったのは、「民間の事業者(36.8%)」(図表2-8-5)。

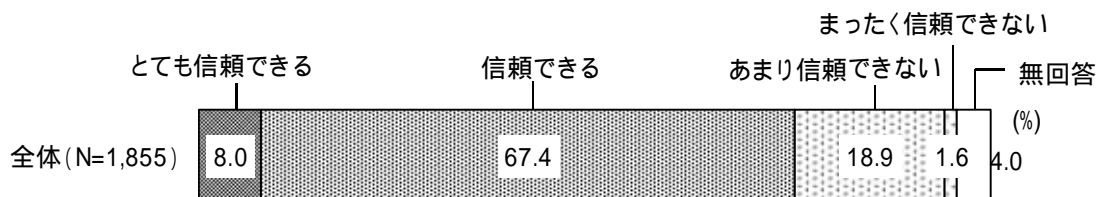
図表2-8-5 子育て支援利用希望(全体：複数回答)



教育事業や子育てサービスに関して世田谷区の行政の信頼の程度（問 22）

保育・教育事業や子育てサービスに関する世田谷区行政の信頼の程度は、「とても信頼できる(8.0%)」と「信頼できる(67.4%)」合わせて、75.4%であり、「あまり信頼できない(18.9%)」と「まったく信頼できない(1.6%)」を合わせた信頼できない(20.5%)とする回答を大きく上回った(図表2-8-6)。

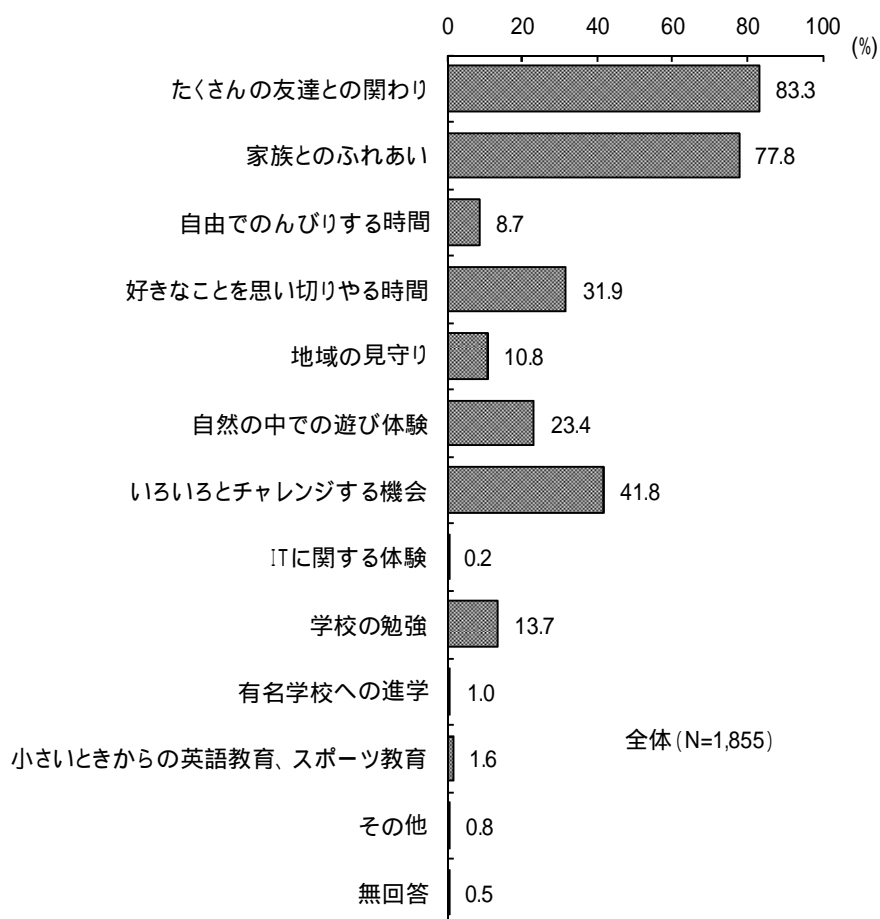
図表2-8-6 教育事業や子育てサービスに関して世田谷区の行政の信頼の程度（全体）



子どもが成長するうえで大切なこと（問 23）

子どもが成長するうえで大切なことを複数回答でたずねたところ、「たくさんの友達との関わり(83.3%)」、「家族とのふれあい(77.8%)」、「いろいろとチャレンジする機会(41.8%)」、「好きなことを思い切りやる時間(31.9%)」の順が多かった(図表2-8-7)。

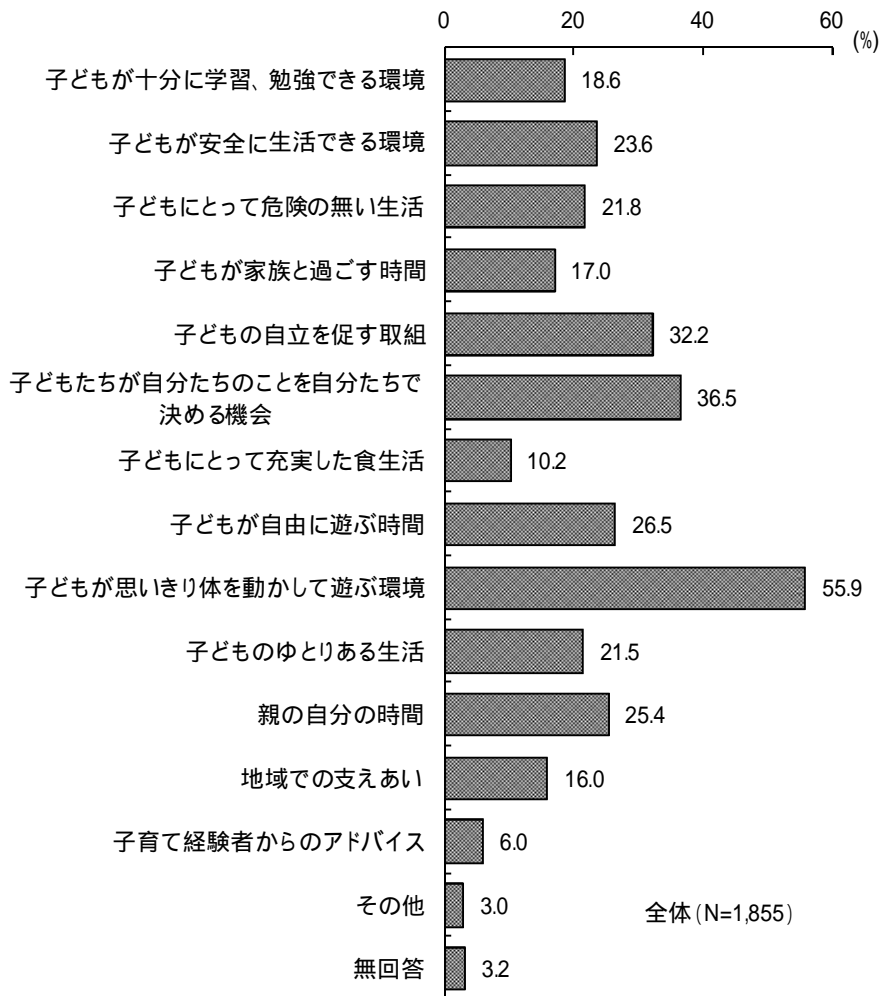
図表2-8-7 子どもが成長するうえで大切なこと
(全体：複数回答(3つまで))



子育てするうえで足りていないと感じること（問 24）

子育てするうえで足りていないと感じていることは、「子どもが思いきり体を動かして遊ぶ環境（55.9%）」、「子どもたちが自分たちのことを自分たちで決める機会（36.5%）」、「子どもの自立を促す取組（32.2%）」、「親の自分の時間（25.4%）」などの回答が多かった（図表 2 - 8 - 8 ）。

図表 2 - 8 - 8 子育てするうえで足りていないと感じること（全体：複数回答）

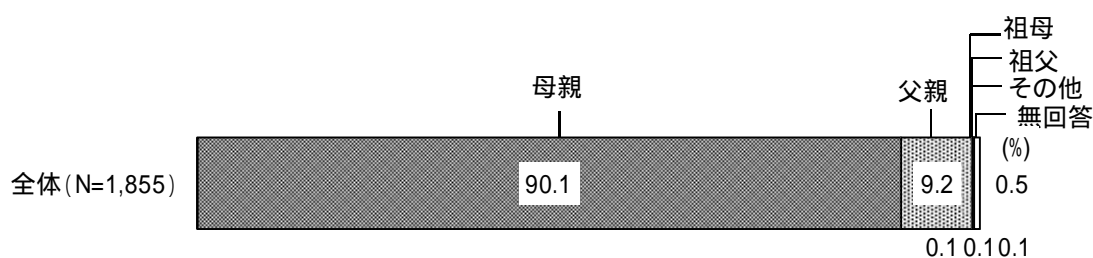


(9) 回答者の属性

子どもからみた属性 (問 25)

回答者の子どもからみた属性は、「母親」が90.1%、「父親」が9.2%であった(図表2-9-1)。

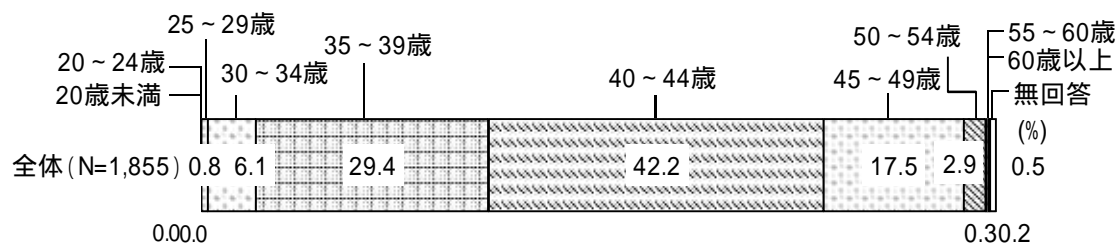
図表2-9-1 子どもからみた属性(全体)



年代 (問 26)

年代は、「40～44歳(42.2%)」、「35～39歳(29.4%)」、「45～49歳(17.5%)」などが多かった(図表2-9-2)。

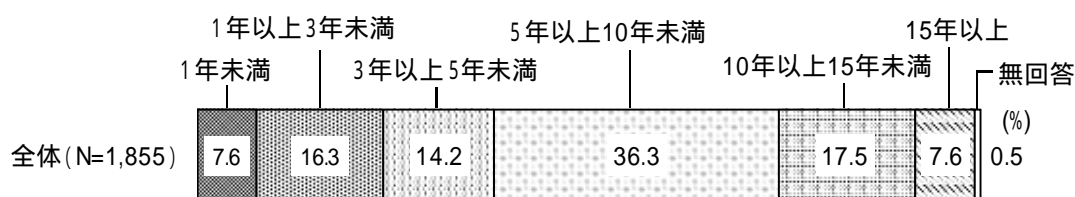
図表2-9-2 年代(全体)



現在の場所での居住年数 (問 27)

現在の場所での居住年数は、「5年以上10年未満」が36.3%と最も多かった(図表2-9-3)。

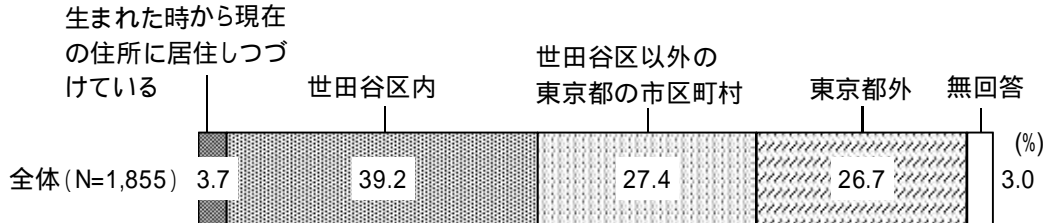
図表2-9-3 現在の場所での居住年数



現在の住所に移る前の居住地（問 28）

現在の住所に移る前の居住地は、世田谷区内が 42.9%、区外が 54.1%であった（図表 2 - 9 - 4 - ）。

図表 2 - 9 - 4 - 現在の住所に移る前の居住地（全体）



世田谷区に転入したタイミング

世田谷区に転入したタイミングは、「第 1 子小学校就学前（39.1%）」、「結婚後、第 1 子誕生（24.9%）」が多かった（図表 2 - 9 - 4 - ）。

図表 2 - 9 - 4 - 世田谷区に転入したタイミング（全体）

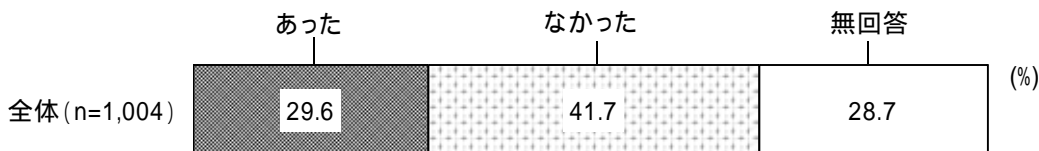
<現在の住所に移る前の居住地が世田谷区以外の人>



世田谷区に転入した理由に子育て環境への期待・情報等の有無

世田谷区に転入した理由に子育て環境への期待・情報等の有無は、「あった（29.6%）」とする人が「なかった（41.7%）」とする人を下回っている（図表 2 - 9 - 4 - ）。

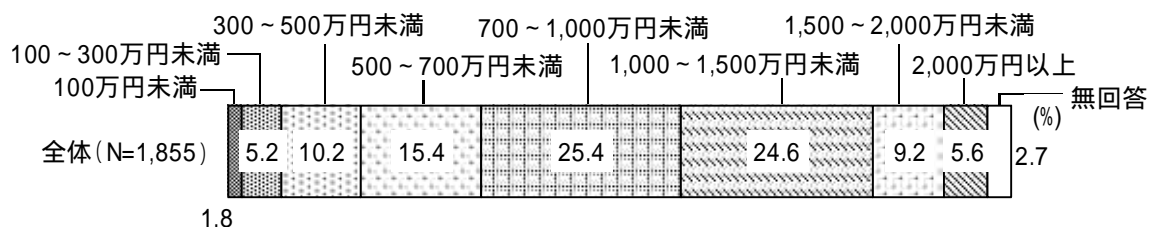
図表 2 - 9 - 4 - 世田谷区に転入した理由に子育て環境への期待や情報等の有無（全体）<第 1 子が未就学児の時に世田谷区に転入した人>



世帯収入（問 29）

世帯収入は、「700～1,000万円未満（25.4%）」、「1,000～1,500万円未満（24.6%）」、「500～700万円未満（15.4%）」などが多くなっている（図表2-9-5）。

図表2-9-5 世帯収入（全体）



(10) 世田谷区での子育て

世田谷区を子育てしやすいまちと感じる程度（問 30）

世田谷区が子育てのしやすいまちかについてたずねたところ、「とても子育てしやすいと感じる（15.5%）」、「子育てしやすいと感じる（61.0%）」を合わせて、76.5%の人が肯定的に評価している（図表2-10-1）。

図表2-10-1 世田谷区を子育てしやすいまちと感じる程度（全体）

